

昭和四十六年三月刊

史料館所藏史料目錄

第十八集

文部省史料館

史料館所藏史料目錄

第十八集



大葛金山領金山沢一鳥沢岡絵図〔708〕



## 凡例

- 一 本目録は『史料館所蔵史料目録』第十八集として、出羽国秋田郡南比内大葛金山支配人荒谷家文書目録を収めた。
- 一 史料は利用上の便宜を考慮して、その内容・体裁等に応じ、大・中・小の項目を立てて分類配列した。大項目は一〇ポイント・ゴチック活字、中項目は九ポイント・ゴチック活字、小項目は九ポイント活字で示した。但し、内容が多岐にわたり他の項目中にも掲げることが妥当と考えたものは\*印を付して重出した。
- 一 史料目録の記載欄はほぼ、(一)表題 (二)作成者または差出人 (三)宛名 (四)作成年月 (五)形態 (六)数量 (七)整理番号の順である。
- 一 表題(史料名称)は原則として原表題を採ったが、適宜改変を加えたものもある。原表題の無いものおよび原表題を改変したものは仮に命名して掲げ、( )を付して前者と区別した。また原表題について内容摘記を付したものが若干あり、これは「」内に八ポイント活字をもって併記した。
- 一 作成者または差出人および宛名は、表題から推知しうるもの、項目によって判明しうるものは適宜省略した。なお役職名・地名などは必要に応じて付した。
- 一 写・控・下書等の区別は、原表題のあるものはその下に( )を付して、また仮表題のときは( )内に表題に続けて八ポイント活字で示した。
- 一 作成年次は年月・干支を採って原則として日を省略したが、項目によっては月をも省略した。簿冊等で数年にわたるものは、始年―終年で示し、また推定年代は( )を付した。
- 一 史料の形態は、簿冊類では半(半紙判)、美(美濃判)、美大(美濃大判)、半半(半紙半截判)、美半(美濃半截判)、美大半(美濃大半截判)、横長半(半紙横長判)、横長美(美濃横長判)、横半半(半紙半截横長判)、横美半(美濃半截横長判)などによって原書の大きさの大概を示すにどめ、近代の書籍は四六、菊などの版型表示に従った。また、一紙書付類は大概は通をもって数量を示し、紙形の大小・寸法は省略した。絵図類は縦横の寸法をセンチメートル単位で示した。
- 一 数量の上部に示した板は木版物、刊は公刊活字印刷物、印はとくに公刊を目的としない活字印刷物、孔は孔版印刷物である。また仮は仮綴本、合は合綴物、継は継文書を示した。

- 一 最下欄の数字は、各史料の整理番号を示す。照会・閲覧・引用の場合に利用されたい。なお整理番号一―九八七は昭和二十五年購入分（文書記号25 B）、一〇〇一以後は昭和四十四年度受贈分（文書記号44 F）である。
- 一 卷末に簡単な解題を付した。

目次

口 繪  
凡 例

出羽国秋田郡南比内大葛金山荒谷家文書

目 録 ..... 一 頁

目 次 ..... 二 頁

目 録 ..... 五 頁

解 題 ..... 三 頁

出羽国  
秋田郡  
南比内  
大葛金山荒谷家文書目錄



出羽国 秋田郡 南比内 大葛金山 荒谷家文書目録目次

領主	五	出金銅	七	櫃鉛山、中ノ沢金堀沢瀬ノ沢鉛山、
藩政	五	運上・献納	元	長間金山、阿仁銅山、赤沢金山、平
藩主、家臣、維新	五	運上、献納	元	鉛山、八森銀山、松岡銀山、院内銀
法令	五	會計	三	山、南部領鉞山、津輕領鉞山、不明
幕法、藩法、布告・布達	五	金位双替、見積、収支、經費、勞賃	三	鋪、鉞区、測量図
鉞山	六	金融	三	山沢繪図
概要	六	拝借、返納、貸借、無尽	三	雜繪図
支配	六	砥石山	三	土地
礼式、御用状	六	交通・運輸	三	所持地
巡見	六	用留・日記	三	検地帳、検地入用、辛勞免高、地租
山法	七	用留、日記、雜録	三	改正、開發、用水、土地売買、土地
山法、規則、議定	七	鉞業投資	三	書入、小作
沿革	八	八森銀山、林ノ沢銀山、炭谷鉞山、	三	山林
大葛金山、院内銀山、南部領鉞山	八	芦内沢銅鉞区、大卷銀山、白ヶ沢銀	三	山論・境論、材木、植林、官山拝借
支配人	九	鉞、鷲合鉞山、寺之沢金鉞、樺銀山、	三	地、官民部分林
仕法	一〇	岩館鉞山、大新沢鉞区、冷水鉞山、	三	貢租
技術	二	上保原金山、湯田村銅鉞区、上富良	三	産業
經營	二	野村硫黄鉞、鉞業權讓渡、鉞山監督	三	養蚕
經營、役人、人別、騷動、統制、器	二	署通達	三	畜産
具、用材、薪炭、米穀、酒、物価	二	繪	三	馬産、牧牛
医療	五	鉞山繪図	元	勸業
採掘	六	大葛金山、立又沢銅山、曲田沢金山、	元	政治
測量、採掘、排水	六	戸沢金山、新沢銅山、大開古鉛山、大	元	政治
精鍊	七	湯沢鉛山、冷水銀鉛山、前沢鉛山、八	元	村政、県政、国政、政見

學事……………三

家……………三

家譜、進獻、家法、名書、養子、婚  
禮、墓誌、法事、音信、徵兵、教育、  
分家、役職

家計……………四

所得、貸借、出納、出資、請求請取

書……………

雜錄……………七

書狀……………七

荒谷差出書狀……………七

荒谷忠右衛門書狀、荒谷忠兵衛書狀、

荒谷忠一郎書狀、荒谷桂吉書狀、荒

谷鉞太書狀

荒谷宛書狀……………八

荒谷忠右衛門宛書狀、荒谷忠兵衛宛

書狀、荒谷慶八宛書狀、荒谷忠一郎

宛書狀、荒谷桂吉宛書狀、荒谷鉞太

宛書狀、荒谷福太郎宛書狀、荒谷宛

書狀

雜書狀……………五

學芸……………五

文芸……………五

書籍……………五

雜……………五

出羽国 荒谷家文書目録

(文書記号 25 B・44F)

領主	藩政	幕法
<p>(疋田齊雜記)〔宏徳院様(義厚) 御幼年中 松塘疋田大夫上書〕(文政五—一二年)</p> <p>半 一冊 二六</p>	<p>天保九戊戌役割帳 荒谷富謙 天保九年 横半半 一冊 三六</p> <p>御役名籍分限書抜 安政三年 半 一冊 三四</p> <p>秋藩關国分限帳〔名家蔵秘録久保田分限帳〕 慶応元年 横半半 二冊 三五</p> <p>天文十九甲子正月浅利家臣分限簿 荒谷桂吉写 横半半 二冊 三七</p> <p>(杉原順吉母生涯式人扶持被下御達書写) 小貫宇右衛門 杉原順吉宛 明治二年 一通 三〇</p> <p>維新</p> <p>羽州庄内討伐老手御人数御軍割帳 慶応四年四月 横長半 一冊 三三</p> <p>(戊辰役之留) 慶応四年 半 一冊 三三</p> <p>(十二処戦争ニ付荷物引取覚) 慶応四年 半 一冊 二六</p>	<p>戊辰御軍事聞書集 慶応四年 半 合一冊 五九</p> <p>聞書〔大館十二処村討死手負名前他) 明治元年 横半半 一冊 五〇</p> <p>秋田藩御達書 明治元年 横長半 四冊 五一</p> <p>陸中花輪表風説覚 荒谷桂吉写 明治二年 横長半 一冊 五三</p> <p>去ル辰八月戦争之節御召使ニ相成候人別書上 明治二年 一通 五三</p> <p>南部盛岡出役之覚 明治 横長半 三冊 五四</p> <p>幕法</p> <p>覚〔古金銀引替ニ付御触書申渡〕阿仁銅山詰合宛 菊地多仲 文政七年 一通 五七</p> <p>(古金銀通用停止延期之御触書) 文政八年 一通 五八</p> <p>藩法</p> <p>天明六年午八月御儉約ニ付ケ条以被仰渡候御書付写 天明六年 半 一冊 二七</p> <p>(来申年々成年迄御改革大儉仕法御条目) 安政六年 半 一冊 三三</p> <p>(当成年々五ヶ年御儉約被仰渡書) 文久二年 半 一冊 三三</p> <p>(来寅年迄) 文久二年 半 一冊 三三</p> <p>(英吉利船渡来ニ付備向手当方御達) (元治元年) 半 一冊 二〇</p>

領主 藩政 法令

(御領中通用封銀ニ付回文) 諸上納役所

(被仰渡留)

(変革被仰出寛)

(軍備ニ付被仰出寛) 三月

(政庁申合控) 儉約方

布告・布達

(各藩私鑄貨幣ニ付太政官御布告写) 明治三年

\* (鉞山巡回ニ付工部省布告写) 荒谷桂吉写  
明治五年四月

\* 国内諸鉞山へ御布令書写 明治五年

(改正新曆布達) 明治五年一月

### 鉞山

#### 概要

政景日記抜書 荒谷富謙写

(佐竹右京大夫領分金銀山覚書) 杉原長治写  
(正徳三・享保二・九年)

鉞山紀年録 卷・二・四 杉原寿山 文政二年  
成稿・同七年増補

旧事籍〔温古録〕 荒谷富謙写

坑業掌録 荒谷桂陰 明治七年

一通 三〇

一綴 三〇

一冊 三三

一通 三六

一通 三六

一通 三六

一通 三〇

一通 三〇

板一枚 二〇

四冊 三三

一冊 三〇

三冊 一〇

一冊 三六

一冊 三六

壳山之法〔鉞山記抜書〕 荒谷桂吉写 明治二年

横半半

一冊 三〇

#### 支配

##### 礼式

吉辰廻礼道線順達寛 文久三年

横長半

一冊 二〇

##### 御用状

(御用状申渡書之写)

惣山奉行下代御用状 安東三右衛門・杉原謙治・根本為助

横長半

五枚 三〇

惣山奉行下代杉原謙治・同順吉御用状 文久・元治

横長半

二一通 三〇

惣山奉行下代杉原順吉御用状 杉原順吉 荒谷桂吉等宛 元治元―慶応元年

横長半

二三通 三〇

(御用状留)

横長半

二綴 三〇

#### 巡見

(御家老今宮大学様外御巡見覚書) 享保二二年三月他

横長半

一通 三三

西四月十三日於江戸表御勘定々被仰渡御候書付寛政元年

横長半

一冊 三三

\* 御巡見様御登山ニ付入用明細帳控 荒谷和三郎 (院内銀山) (寛政元年)

横長半

一冊 三〇

\* 長峯正兵衛様御登山之節模様普請処ひかへ 大葛金山 文化一三年

横長半

一冊 三〇

(津輕湯野沢銀山見分扣) 荒谷忠兵衛・中村儀右衛門等 文政一〇年

横長半

七通 三三

(国安又兵衛大葛金山見分關係書類) (大葛金山岡繪図・同鋪図・由緒書他) 天保八年

(大葛金山窮狀ニ付御登山御見分願書扣) 荒谷慶八(天保九年)

御勘定吟味役水戸部新助様御登山用書類 附鋪繪図共 天保十一年

(御巡見使并御領主様御廻覽年記) (慶長七年御遷邦以来) 天保一四年

小沢銅山支配人上松平右衛門書狀 返書案共 荒谷忠右衛門・敬八・忠市郎宛 天保一四年

(巡見使之書上草稿) 天保一四年

金山御見分留 銅山方 天保以降

勘定奉行大葛金山見分關係書類 弘化二年

御勘定奉行神沢昇様他

御吟味役銅山方小野崎要様他 御登山用書類

(向触・御登山之節申上候控・舖内斛并絵図・年借米願) 弘化四年

御先触御添書写 元治元年

公儀御役人御普請役井上十治様御登山諸用控 (院内銀山)

公儀支配勘定役金山江被越候節扱向書留帳

金銀銅鉛鉄山為見分支配勘定本山幾太郎等罷下候ニ付取扱向伺書

茂木筑後守様御登山之節差上候伺書 (下書)

荒谷忠兵衛・慶八

(御見分使御登山ノ節伺願) 卯年六月

南部山々御巡見使之様子内々聞取覚 亥年二月

三枚  
五通  
二七

一通  
九四

四册  
三鋪  
三七

一通  
四六

三通  
四六

一册  
一册  
一册  
一册  
二册  
二册

二通  
二綴  
二綴  
二綴

一册  
一册  
一册  
一册

半  
半  
半  
半

半  
半  
半  
半

半  
半  
半  
半

半  
半  
半  
半

一通  
一通  
一通  
一通

一通  
一通  
一通  
一通

二通  
二通  
二通  
二通

一册  
一册  
一册  
一册

奉行衆・吟味衆御登山ノ節往古御披露式御書付

(御巡檢御行列附)

(大葛惣山見分之折即興一首)

\* (鉦山巡回ニ付工部省布告写) 荒谷桂吉写 明治五年四月

山 法

山 法

(山法定書) (大葛金山方) 大槻五郎兵衛・木内金右衛門・茂木祐右衛門・山方才三郎・大塚新右衛門・福地嘉兵衛・丹宗十郎・石川縫殿之丞・平沢縫殿 宝曆九年

(大葛御直山別山ニ相立支配申付申渡) 宝曆一二年

大葛山小沢支配山ニ候処別山ニ被相立候被仰渡書式通之写 荒谷忠右衛門 宝曆十一年

(院内銀山御条目) 明和四年九月

(大葛金山制札文案伺) 寛政四年

寛政四年九月阿仁銅山御札之写 寛政四年

(御山御定書写) 嘉永元年

羽州秋田御定廿七箇御山法書 荒谷桂吉写 慶應二年

(御山御定法写)・金銀御壳方格合・荷配覚・四留由来之事

(大葛御山制札ニッキ上申書案)

一通  
一册  
一册  
一册  
一册  
一册

一通  
一册  
一册  
一册  
一册  
一册

一通  
一册  
一册  
一册  
一册  
一册

一通  
一册  
一册  
一册  
一册  
一册

一通  
一册  
一册  
一册  
一册  
一册

一通  
一册  
一册  
一册  
一册  
一册

一通  
一册  
一册  
一册  
一册  
一册

一通  
一册  
一册  
一册  
一册  
一册

一通  
一册  
一册  
一册  
一册  
一册

一通  
一册  
一册  
一册  
一册  
一册

一通  
一册  
一册  
一册  
一册  
一册

一通  
一册  
一册  
一册  
一册  
一册

一通  
一册  
一册  
一册  
一册  
一册

一通  
一册  
一册  
一册  
一册  
一册

一通  
一册  
一册  
一册  
一册  
一册

一通  
一册  
一册  
一册  
一册  
一册

志渡伊兵衛勤中真木沢山中江申渡ケ条

半 一冊 三番

\*国内諸鉾山へ御布令書写 明治五年

一通 五番

規 則

大葛金山稼行規則并調書 第一号 明治二二一年八月

半 一冊 一番

小真木鉾山会申合規則 (明治二二年一月)

四六 一冊 六番

(小真木鉾山規則書・日本坑法) 明治写

半 一冊 三番

大卷銀山営業総則 委員長益田孝他

二枚 七番

議 定

大葛御山江二又村ヶ差出証文 二又村地主・長百姓 大葛金山御台所宛 文化八年・文政六年

二通 五番

沿 革

大葛金山

大葛御直山被成置候次第留書 宝曆一年

美大 一冊 三番

大葛金山当時出積并山中小屋敷覚 荒谷忠右衛門 (寛政六年)

半 一冊 六番

(大葛金山沿革口上書) 荒谷忠兵衛 (文化八年)

半 一冊 七番

大葛古金山開闢年曆并出金等之訳御尋ニ付御答之覚 大葛金山支配人荒谷和三郎 五年五月

半 一冊 七番

(大葛金山由緒書) 惣山下代杉原長治旧記抜萃) 荒谷忠右衛門写 (文化一五年)

一通 三番

(大葛金山沿革并吹金製法覚書) 荒谷忠兵衛 文政四年

半 一冊 五番

大葛金山由緒書 (杉原氏旧記・御領中諸山記録書抜) 文政七年

半 一冊 九番

御奉行清水衛門様 御登山之時由緒書上覚 大御吟味役片岡敬助様

半 一冊 六番

萬金山荒谷忠兵衛・慶八 天保四年三月

大葛金山申伝書覚 (御勘定奉行国安文左衛門等巡見ノ際書上) 天保八年

一通 三番

大葛金山当時取扱覚控 (天保八年)

半 一冊 二番

大葛金山開闢申伝ヶ向後永統普請方覚草稿 控共 (天保八年)

半 二冊 三番

大葛金山開闢より中古繁榮之年曆并向後永統普請処迄口上覚 荒谷中右衛門 天保一一年

半 一冊 七番

(大葛金山由緒書上扣) 荒谷忠右衛門 天保一四年

半 一冊 七番

山内諸事覚 荒谷富謙 安政六年一〇月

半 一冊 五番

(大葛金山書上) (役附并順席覚・吹金代并諸渡物値段之覚) 大葛金山支配人荒谷桂吉 元治元年

半 二冊 四番

(大葛金山由緒覚)

一冊 三番

(大葛金山・杉沢金山 沿革記) 一房沢金山他四金山

半 一冊 六番

大葛金山門番前御制札場より片附山長部沢割沢口炭小屋迄間敷覚

横半 一冊 二番

(大葛金山鉾掘年積覚) 山方

一通 三番

(大葛金山取調方通達書) 惣山下代

一通 九番

大葛金山初模樣書上帳扣 草稿共 荒谷忠兵衛・慶八 天保八年

半 二冊 四番

大葛金山模様書上帳扣 荒谷忠兵衛 半 一冊 兪  
 大葛金山模様書上帳(草稿)〔素普請処・金名子渡世・切羽総人数〕 半 一冊 吾

\*模様帳 大葛金山 亥年正月(嘉永四年九) 半 合一冊 三〇

大葛金山開闢中古繁栄年曆申伝大凡書上帳 半 一冊 忒  
 大葛金山重手代荒谷兵治・同大田見金十郎(明治六年) 半 一冊 忒

諸役場代価書上帳 明治六年一〇月 半 一冊 三三

(大葛金山取調書写) 東京鉱業会社 明治一八年 二通 三六

大葛鉱山消費調并捨石運搬調 明治一九年 二通 三〇

大葛支山坑内長高低表 明治三四年 一冊 三〇

大葛鉱山坑内測量表 大葛支山事務所 明治 一括 三六

鉱業所構内外建家坪数調 明治 一枚 三六

院内 銀山

秋田領雄勝郡院内銀山稼方之儀御尋之趣申上候書附 院内銀山支配人荒谷和三郎(寛政元年) 半 一冊 四

秋田領羽州雄勝郡院内銀山鋪内調書付控(鋪内間敷調書) 院内銀山支配人荒谷和三郎他 寛政元年 半 一冊 四

院内銀山新古鋪々書上覚 寛政元年五月 半 一冊 四

院内銀山鋪内働場所書上 酉年一〇月(寛政元年九) 半 一冊 三

(院内銀山取扱御免除願書) 荒谷和三郎 寛政元年 半 一冊 三二

山三良演舌(十二貫目銀山他五箇処ノ沿革) 荒谷慶八 酉年十二月 半 一冊 三三

南部領 鉱山

三沢御鋪内并働方書上 荒谷忠兵衛富光 明和六年 新銭古銭通用方被仰渡書 尾去沢銅山 明和九年 半 一冊 三三

支配人

(荒谷忠右衛門江金方世話役被仰付ニ付仕法覚) 明和元年 一通 三〇

(大葛金山横目役働方ニ付御窺書上扣) 荒谷忠右衛門 (明和元年) 半 一冊 三〇

(大葛金山支配人御扶持継続願書類) 附代々御扶持御証拠・御扶持御書付 写共 荒谷忠右衛門・同和三郎・同忠兵衛等 安永二一寛政一〇年 半 三冊 三〇

(大葛金山御受山願口上書控) (安永八年九) 半 一冊 三三

乍恐口上覚(扶持拝領仕罷有候訳柄御尋ニ付) 大葛金山支配人荒谷忠右衛門 (寛政八年) 八月 半 一冊 三六

(荒谷忠兵衛等御呵り御赦ニ付杉原長治内願書) 惣山下代杉原長治 文化一四年 半 一冊 三六

荒谷忠兵衛御紋附御裱拝領之御書附 附御礼口上書写 天保七年 二通 三六

(去ル巳年凶作ニ付金山飯料手配行届出精拔群之儀拝領物被仰付御書附之写) 荒谷中兵衛宛 三月 二通 三三

附(御紋附御上下拝領引渡覚) 杉原長治

(大葛金山支配人荒谷忠右衛門并同慶八江田藩ノ賞与之書附写) 弘化元・万延三年 一通 三六

大葛金山支配人荒谷忠右衛門御賞御書付

一通 〇〇〇

荒谷慶八御賞御書附 文久三年

一通 〇〇〇

(荒谷慶八功勞ニ付申請書控) 文久三年

一通 〇〇〇

吹銀方御用係御褒美被下置候節御演說書  
書狀共 文久三年

四通 〇〇〇

(荒谷忠一郎大葛金山支配人引継一件書類控)  
文久三年

一通 〇〇〇

荒谷忠一郎扶持狀写 文久三年

一通 〇〇〇

支配役江申渡 (帶刀殿御判紙写) 銅山方  
大葛金山荒谷氏宛 元治元年

八通 〇〇〇

荒谷忠一郎跡役引継願書案并関係書類 惣山奉  
行下代杉原順吉等 元治元年

七通 〇〇〇

荒谷忠一郎跡式相統一件願書 (控) 荒谷桂吉  
等 元治元年

一通 〇〇〇

大葛金山支配人御免願控 荒谷桂吉 明治二年

一通 〇〇〇

(荒谷家再興祈願文扣) 荒谷桂吉富延 明治一  
年

一通 〇〇〇

(差配人御免下山急度御叱申渡御書附) 荒谷  
桂吉宛 八月 (明治三年)

一通 〇〇〇

(差配人御免格別五人御扶持被下御書附) 写共  
荒谷桂吉宛 八月 (明治三年)

一通 〇〇〇

(指配人御免下山仰付以来渡世掘仰付ニ付取  
扱出精被仰渡御書附写)

一通 〇〇〇

(午八月迄未七月迄手代役被仰渡御書附写)

一通 〇〇〇

大葛金山手代共宛 八月 (明治三年)

一通 〇〇〇

(差配人御免下山仰付以来渡世掘仰付ニ付掘方  
出被仰渡御書附写) 大葛金山金子宛 八月  
(明治三年)

一通 〇〇〇

(御目見ニ付伺書) 大葛金山支配人見習荒谷忠  
一郎

一通 〇〇〇

荒谷鉾太手代辞令 (工部省) 明治六年一  
二月

一通 〇〇〇

江戸一件ニ付諸寛綴(院内銀山吹銀他払ニ付於江  
戸表和三郎御取調ノ一件書類) 荒谷忠右衛門・同  
和三郎 寛政二一三年

一通 〇〇〇

(荒谷和三郎出府一件内願書類) (江戸表桑原  
新五郎吹銀他払召捕一件ニ付) 寛政二一三年

一通 〇〇〇

乍恐口上寛(和三郎御尋一件) 荒谷忠藏  
(寛政三年) 一月

一通 〇〇〇

亥三月十九日於御番所御尋ニ付御答申上候次第  
荒谷和三郎 寛政三年

一通 〇〇〇

(和三郎指急江戸表江出立ニ付願届草稿)  
子年一〇月

一通 〇〇〇

南伝馬町惣兵衛一件申渡 子年二月

一通 〇〇〇

下金銀 金仲間(写) 日本橋・京橋・芝組合 明和七年

一通 〇〇〇

仕法

小沢大沢萱草式ノ又大葛仕法明細書 宝曆九年  
六月

一通 〇〇〇

不老倉御山御定目録帳 尾去沢御銅山御山方荒  
谷忠兵衛 安永四年一〇月

一通 〇〇〇

鍵老荷目形并滴銀之訳書上(控) 酉年八月(寛  
政元年)

一通 〇〇〇

御窺書々条限付札ヲ以被仰渡候分 申年十一月

一通 〇〇〇



(金銀銅山仕法覚書)

半 一冊 三〇

技 術

(山灰金色結法秘伝書) 附口伝覚書 石川重政・同重定 荒谷当長宛 天保九年

三通 三〇

任筆 礦事録 荒谷桂吉 明治五年二月

横半半 一冊 二八

御公方山稼方并ニ四ツ留秘伝

横半半 一冊 二四

山秘伝書

横半半 一冊 二四

(土生金弁)〔要録註解〕

半 一冊 二五

\*金位双替考課算術秘書 荒谷桂吉

一袋 八通 三六

\*〔測地図解〕 足立雅之進 天明三年

継一卷 三七

鋪内手板継便利考 益堂 天保一五年

横半半 一冊 二七

\*繩継之姿〔模型図〕

6x8 一鋪 六九

町見盤之図

8x8 一枚 二六

(町間測量術法)

一枚 二六

經 營

經 營

(子閏正月大葛金山弥三郎御尋之儀条々) 宝永五年

一通 三三

大葛金山定法入方書 安永九年一月

半 一冊 三〇

大葛金山定法覚(安永頃)  
附御山取担再興ニ付拝借金米願書

半 一冊 三五

(大葛金山請山立覚) 天明元年

一通 三二

乍恐口上覚御徳分三ヶ条申上候控 大葛金山支配人荒谷忠右衛門(天明三年)

半 一冊 二五

(院内銀山御徳用ニ付口上書并引継支配実弟平治郎願書草稿) (寛政元年)

一通 二二

\*大葛金山御苦柄ニ付歛願書 荒谷忠兵衛 文化二年

半 一冊 二二

附赤山大切鋪三十三本樋道中水抜切方料覚 八森銀山取担之願書扣 荒谷忠兵衛・大坂彦兵衛 酉年四月(文化一〇年)

半 一冊 三〇

八森山相師訴訟願書控 荒谷忠兵衛(文化一三年) 二月

半 一冊 二六

誓詞書(曲田金山吹金上納ニ付神文誓紙) 曲田山鋪主蔵松 文政三年四月

一通 三〇

秋田郡南比内曲田村曲田沢金山請山証文 御勘定所 荒谷忠兵衛宛 文政四年

一通 三〇

町田大之進様白土儀右衛門様御登山之節御直御普請被仰下度願書 荒谷忠兵衛 文政五年四月

半 合一冊 二六

附大葛金山普請取立料箇処限帳

御山永統規定会評口達覚 天保二年八月

半 一冊 二六

(御山返上願書控) 大葛金山支配人荒谷忠兵衛 天保一〇・一一年

半 二冊 二二

(荒谷忠一郎上書)〔乍恐御内々奉申上候御事・御下々金拝領願書・大葛金代諸向上納并山元拝領割合〕 大葛金山支配人荒谷忠一郎 文久三年

半 三冊 二六

<p>(大葛金山御救助願ニ付添状草稿) 金山手代 荒谷兵治外二名 明治二年 一通 四三</p>	<p>(返上山願ニ付意見書状控) 荒谷忠兵衛 荒谷 慶八外二名宛 亥年三月 一冊 三六</p>	<p>(御山返上願書草稿) 三通 三五 大葛鉾山松下願書 草稿共 明治一九年 一綴 五九</p>	<p>役 人 (大葛金山役人名前付) 卯年六月(天保一四年九) 戌年四月(嘉永二年九) 二通 三五</p>	<p>真木沢御山役与控 安政二一三年 一冊 六六 (大葛金山支配人手代等名前書) 慶応四年 一通 六五</p>	<p>御手代人別并諸宛行覚 子年四月・丑年八月・ 午年四月 三冊 六六</p>	<p>高田五郎兵衛誓文 高田五郎兵衛 荒谷忠兵衛・ 同桂吉宛 文化一四年 一通 五九</p>	<p>(分家荒谷武左衛門召返ニ付誓文) 血判 杉原長治奥書 主家荒谷忠兵衛・慶吉宛 文化 一四年一〇月 一通 二〇</p>	<p>治右衛門神文 治右衛門・親類長八外六名 文 政元年 一通 五九</p>	<p>(戸沢銀山山方役清藏見返奉公被仰付度歎願 書) 文政二年 半 一冊 六四</p>	<p>(荒谷武左衛門并倉松江御賞銀申渡書) 荒谷 忠兵衛宛 一通 四三</p>	<p>人 別 大葛金山惣人数調 (弘化二年) 横長半 一冊 三六</p>
<p>金名子名籍書上 (元治元年) 四月 半 一冊 一七</p>	<p>大葛金山山内惣人数惣家数取調并金名子名籍 書上帳 控共 大葛金山支配人荒谷桂吉 元治元年 九月 半 三冊 六</p>	<p>人別書上帳 大葛金山 荒谷桂吉 慶応四年 横長半 一冊 二七</p>	<p>(大葛金山金名子堀子地大工名前付) 山方 (山内正人別書上帳) (明治三年) 半 一冊 二六</p>	<p>山内総人員書上帳 重手代荒谷兵治(明治六年 三月) 半 一冊 五</p>	<p>騷 動 已来慎之為後証一札(清吉宅石礫徒党云々) 五郎七外六名 文化一一年 一通 六三</p>	<p>宮松口上書覚 文政一三年六月 半 一冊 三三</p>	<p>嘉永元年四月金名子并地大工等出奔一件覚 嘉永元年 半 一冊 三三</p>	<p>嘉永六癸丑年七月山内之者共出奔之一件諸書 留 嘉永六年 半 三冊 六</p>	<p>真木山銅山山口市藏書状 大葛金山荒谷慶吉宛 (大葛村金名子等帰山ニ付神誓証文写) 組頭文右衛門外十九名 嘉永六年 一通 九</p>	<p>(堀子地大工頼条々) 二通 九</p>	<p>金名子共越訴一件ニ付密訴書付(草稿) 半 一冊 六 金名子共不届入寺問答書 半 一冊 二 山方金名子へ申渡覚(草稿并控) 半 三冊 九</p>

(大葛金山金子出奔ニ付御山取鎮メ方願書草稿) 荒谷忠兵衛・同慶八 卯年九月 半 一冊 二五

(金子出奔取鎮ニ付御登山願控) 荒谷忠兵衛・同慶八 卯年九月 半 一冊 九三

(金子共御神祭不参一件覚) 五月 半 一冊 六〇

統制

(赤山大剪五三郎小屋金掘喧嘩一件巨細之控) 寛延四年 半 二冊 八

(山内商売方制禁ニ付連印手形) 大葛村・二又村長百姓・地主等 享和四年三月 半 一冊 二九三

(左次郎不行迹詫状) 親類衆中宛 文化一〇年 二通 五五

(伊之助御咎ニ付請合詫状) 二又村伊之助外二名 御山御本番宛 文化一二年 一通 五八

(治郎右衛門慎ニ付親類連判一札) 文化一四年 一通 五七

与八郎慎証文〔御法度ノ品売買ニ付〕与八郎・町請合人九名 御本番宛 文政二年 一通 五三

(天秤沢ニ而徒伐一件権兵衛慎証文) 権兵衛・親類甚九郎外一三名 文政二年 一通 五〇

(甚五兵衛塩密売ニ付御詫一札) 二又村甚五兵衛外一二名 荒谷忠兵衛宛 文政六年 一通 五三

納屋元家業御咎ニ付御詫一札 甚之助 慶応三年正月 一通 五三

(金場打埃盜取一件ニ付差上一札) 清吉・同親類・山中組頭以下 辰年八月 一通 五五

(長八失火御詫内済歎願書) 亥年六月 二通 五三

(切支丹御調ニ付歎願書案) 忠右衛門 一通 五七

(南部銅山越鉛一件覚) 草稿共 半 二冊 三三

器具

附ケ本之事上書控 大葛金山荒谷忠兵衛 文政六年一〇月 半 一冊 三九

(山内用品運搬指図覚) 銅山方 亥年一〇月 一通 六五

諸役場器械書上帳 大葛金山控 荒谷兵治 (明治六年) 半 一冊 三〇

細倉鉦山撰鉦所ジツガール設計図 明治三二年 80×75 一枚 六〇

(ジツガール設計図) 明治三四年 85×77 一枚 六〇

大葛支山昇鉦器設置図 明治 77×83 一枚 五九

用材

(大葛村泥繫沢植立証抛書類) 文化八年 半 二冊 五七

長部沢一件要書 大葛金山荒谷忠兵衛 文化九一〇・文政四年 半 六冊 五三

(長部沢杉本木三百本拜領願書草稿) 西年六月(文化一〇年九) 一通 五三

(大葛村諸沢植立ニ付木山方御吟味役ノ被仰渡御書付) 文化一〇年 一通 五九

(御金御米御木分一件内願書) 荒谷忠兵衛 (文政二年) 九月 半 一冊 三三

杉植立大葛金山御永統願書控 天保二年一〇月 半 一冊 三六

大葛金山空地江杉植立願書控 荒谷忠兵衛 天保二年一二月 半 一冊 三九

春木流入方帳 天保三年一〇月 横長半 一冊 四三

御境栗松細野三藏ノ買入木分控 安政三年九月 横長半 一冊 四九



鳥越様御藏米取組極書 控并下書共 売主荒谷忠右衛門・同慶八 久保平右衛門・小田島徳之助宛 天保七年	四通	四〇
大館御藏返上米百石受取手形 田村力藏等 荒谷中兵衛宛 天保八年	一通	三〇
後藤鉄之助藏預書一件訴状 (控) (尾關) 天保九年	一冊	九〇
米預リ手形 一ノ関永太郎 荒谷和三郎宛 天保十二年	一通	三〇
大葛金山飯料米指支ニ付願書 (控) 荒谷慶八 嘉永四年六月	一冊	五二
米取組一札 荒谷慶八 能登屋久兵衛外三名宛 嘉永四年	一通	三〇
*銅山御飯料米拝借証文 荒谷慶八・同忠一郎 嘉永五年	一通	四三
(大葛金山飯料米不足ニ付願書控) 荒谷慶八 嘉永六年	一冊	五二
(大葛金山御救米千二百石拝借願控) 安政五年	一冊	九五
藏預米手形 荒谷又右衛門 中山重三郎宛 文久三年	一通	三〇
石代米取立指引尻 買入米 惣々米為登勘定帳 慶応二年	一冊	一五
大葛金山扶持米調帳 慶応四年二月	一冊	三
大葛金山為替米願書 (控) 荒谷忠兵衛 酉年一〇月	二通	六八
(御貯米貸付覚書)	一通	一〇六

(備米之人名届書) 荒谷五助 長岐茂幹宛 六月	一通	二〇
(長部村備米預入帳)	一冊	三六
酒	一冊	九〇
庄内酒仕送一件書附 荒谷中兵衛 天保六年	一通	三三
(大坂杜氏酒造一件伺書) 九月	一通	三三
物 価	一通	三三
當時山内諸弘物直段覚 附米代覚 丑年八月	一通	三三
能代相場書 [米其他]	一通	四〇
茶町品相場 亥年五月	一通	三〇
(アンチモニー外値段書)	一通	三三

医 療

金掘容体書之控 文政九年一〇月	一冊	一七
金掘病容体書控 荒谷忠兵衛 文政九年	一通	五三
(解石毒薬効能書上) (写々) 渡辺基長 文政九年初冬(一〇月)	一通	一〇一
施本救民薬方録 奥州須加川阿部正右衛門正興 (江戸西村屋与八本 荒谷桂吉写カ) 文化八年一月	一冊	九六
阿片之主治	一枚	一〇〇
コレラ治法 安政五年	一綴	九三
徳本翁十九方	一冊	三三

(仙台角田恭松家之秘法妙薬亨) 丑年六月

採掘

測量

御境通り繩繼帳	荒谷富謙	天保一〇年三月	橫長半	一冊	三六
御境御墨引繩繼控	天保一〇年三月	橫美四半	一冊	三八	
繩繼書附	大葛金山山方	嘉永四—安政四年	橫長半	三綴	三〇
七枚鋪羽繰之内瓢箪口下盤川上鉞押繩繼			橫長半	一冊	二五
(大葛金山繩繼水繼書附雜綴)			三綴	三六	
(温水根合元繼留々繩繼書)	酉年正月	一通	二六		
平鉛山鋪岡繩繼帳	文化六年	二冊	三六		
院内銀山并槇山金山繩繼書附		二通	三六		
泥海山鋪繩繼扣		一冊	三三		
採掘					
*八盛古銀山鋪岡普請入方勘定帳ひかへ	荒谷忠兵衛(文化一〇年)	橫長半	一冊	三三	
*八盛銀山買師小普請入料帳ひかへ	荒谷忠兵衛(文化一〇年四月)	半	一冊	三五	
八盛銀山取明本番普請帳ひかへ	荒谷忠兵衛(文化一〇年四月)	半	一冊	三六	
*八盛銀山本番切山普請入料帳ひかへ	荒谷忠兵衛(文化一〇年四月)	半	一冊	三七	
八盛古銀山模様書上帳	荒谷忠兵衛(文化一〇年)	半	一冊	三四	

秋田銀山普請取建方箇所限帳 (文化一二年六月)

\*長峯正兵衛様御登山之節模様普請処ひかへ  
大葛金山(文化一三年八月)

大葛金山普請取建方箇所限帳ひかへ  
荒谷忠兵衛(富文)(文化一五年四月)

\*大葛金山普請処并出金銅書上覚控  
荒谷忠兵衛(天保八年)四月

(鍵懸大切御普請ニ付歎願書) 五郎七外四名  
金山永久普請所 取調帳  
并小普請所

古銀山普請料手控

平山御普請料覚(草稿) 巳年七月

太良御直山火繩間掘箇所書上  
戸沢銅山増普請人数積覚 本山 戸沢銅山清蔵宛

素普請処覚

排水

\*大葛金山七枚鋪水拔普請料米拌借願(控)  
荒谷忠右衛門 高根縫右衛門・神沢八郎右衛門宛  
元禄四年

\*大葛金山御苦柄ニ付歎願書) 荒谷忠兵衛  
附赤山大切鋪三十三本樋道中水拔切方料覚

鍵懸沢口ヨリ大浚御普請願書類 大葛金山控  
文化八—(文政一二年)

大葛金山七枚大切鋪々南部槇山根合浚普請料帳  
大葛金山支配人荒谷忠兵衛 文政六年一〇月

秋田銀山普請取建方箇所限帳	(文化一二年六月)	半	一冊	三六
*長峯正兵衛様御登山之節模様普請処ひかへ	大葛金山(文化一三年八月)	半	一冊	三六
大葛金山普請取建方箇所限帳ひかへ	荒谷忠兵衛(富文)(文化一五年四月)	半	一冊	三六
*大葛金山普請処并出金銅書上覚控	荒谷忠兵衛(天保八年)四月	半	一冊	三六
(鍵懸大切御普請ニ付歎願書)	五郎七外四名	半	一冊	三六
金山永久普請所 取調帳	并小普請所	半	一冊	三六
古銀山普請料手控		橫長半	一冊	三六
平山御普請料覚(草稿)	巳年七月	半	一冊	三六
太良御直山火繩間掘箇所書上		半	一冊	三六
戸沢銅山増普請人数積覚	本山 戸沢銅山清蔵宛	半	一冊	三六
素普請処覚		半	一冊	三六
排水				
*大葛金山七枚鋪水拔普請料米拌借願(控)	荒谷忠右衛門 高根縫右衛門・神沢八郎右衛門宛 元禄四年	半	一冊	三六
*大葛金山御苦柄ニ付歎願書)	荒谷忠兵衛 附赤山大切鋪三十三本樋道中水拔切方料覚	半	一冊	三六
鍵懸沢口ヨリ大浚御普請願書類	大葛金山控 文化八—(文政一二年)	半	一冊	三六
大葛金山七枚大切鋪々南部槇山根合浚普請料帳	大葛金山支配人荒谷忠兵衛 文政六年一〇月	半	一冊	三六

大葛金山市鳥沢金山沢北平鋪根合水拔斛帳  
控 文政六年一〇月

半 一冊 一七

從市鳥沢北平鋪大澁水拔諸用書 文政六一七年  
年

半 六冊 一七  
橫長半 七通 一六

(鍵懸沢水拔普請料拝借錢勘定書并願書扣)  
文政一一年八・一〇月

半 一通 一六  
二冊 一六

\*鍵懸沢普請料差引寛 (文政一一年)

半 一通 一六

\*大葛金山市鳥沢大澁御普請 日数積帳 天保  
三年五月 入料

半 二冊 一七  
二枚 一七

\*市鳥沢御普請入料願書上帳控 大葛金山支配人  
長部沢炭薪利潤積 天保三年一二月  
荒谷忠兵衛 (天保三年)

半 一冊 一七

\*市鳥沢御普請延間教書上帳 荒谷忠兵衛・慶八  
巳年四月 (天保四年)

半 一冊 一七

\*大葛金山越鳥沢大切普請料拝借請取通 (控)  
荒谷忠右衛門・同慶八 天保一二年 (弘化元年)

半 一冊 一七  
橫長美 一冊 一七

\* (市鳥沢御普請料拝領願書控) 草稿共 天保一  
二年

半 二冊 一七  
二通 一七

\*大葛金山市鳥沢惣浚御普請入料拝借願 (控)  
支配人荒谷忠右衛門・見習同慶八 (天保一三年)

半 一冊 一七  
四五

(越鳥沢水拔普請料拝借証文) 荒谷慶八・忠一  
良 弘化三年一月

半 一通 一七  
一〇四

\*市鳥沢永久普請入料斛帳 (草稿)

半 一冊 一七

精 鍊

(大葛金山当時取扱并金製順達寛) 天保八年  
四月

半 一冊 一七  
五

白水新見立礪石製精損益考 天保一三年

一通 一〇六

(大葛金塩詰焼金仕法伝授方願書) 荒谷慶八  
・忠一郎 安政三年

半 一冊 一〇六

(大葛灰吹金塩詰法ニ付願書類) 安政四一五年  
(大葛金ニ付取調書上) 院内銀山支配人 安政  
四一五年

半 一綴 一〇六  
合一冊 七

當時燠釜床屋吹方御仕法并御入料大概寛小沢  
床屋 安政五年五月

半 一冊 一七

\*院内銀山塩焼詰金吹入料受取手形 長谷川吉  
太郎・那波勘定場 杉原謙治・荒谷慶八宛 安政  
五年

半 二通 一七  
一冊 一七

(燒詰金仕上り寛并口上書) 荒谷忠一郎 亥年  
九月 (文久三年)

一通 一七

(塩詰金之製法返伝ニ付為取替証文) 佐藤又治  
荒谷桂吉宛 元治元年一二月

一通 一〇六

塩詰金仕法 佐藤又治 一二月

一通 一〇六

恒助殿御用状之内拔書 (大葛金塩詰仕上ケノ  
勅々)

一通 一〇六

大葛金山金製法順達寛控 酉年四月

半 一冊 一〇六

金銀吹分ケ仕方 (後關) 酉年八月

半 一冊 一〇六

院内銀山惣而吹方之次第書上  
大判八百枚日々御出来取調扣

半 一冊 一〇六  
橫長半 一冊 一〇六

出 金 銅

(大葛金山出銅高積書指出方申渡) 寛保二年

半 一通 一〇六

(吹拔金上納方願書并書留纏) 嘉永五一安政元年

半 一冊 一〇六







江戸上屋敷御殿焼失ニ付人差御用銀上納受取手形 高橋多門等 荒谷忠兵衛宛 文政三年

(大葛金山支配人荒谷忠兵衛納御用銀上納手形) 諸上納役所 天保七・八年

上納調錢請取書 加藤主税 大葛金山支配人荒谷中兵衛宛 天保一〇年

大館御城にて吹金百目献納内願書(控) 荒谷慶八(嘉永元年?) 申年六月

(大葛金山上納金沿革覚) 荒谷忠一郎 嘉永七年

江戸上屋敷類焼ニ付冥加金献納願書類 荒谷慶八等 安政三年

(末年御調達金上納訳書) (万延元年)

御慶事方御備江冥加金献納請取手形 荒谷慶八・忠一郎宛 文久二年

久保田御用銀人別覚 文久三年八月

會計

金位双替

(吹金双替御取極願書) 荒谷慶八・忠一郎 文化元年

吹金代正金ニ而被渡下度願書扣 大葛金山当時一ヶ月相統入料凡中勘覚 乍恐御内々口上覚(御救願書)

荒谷中兵衛 天保五・六年

(吹金代御定之通り正金ニ而被渡下度願書 草稿) 支配人荒谷中兵衛(天保七年) 八月

二通 三六

八通 三五

一通 四四

一通 六六

一通 四三

七通 四四

一通 三六

二通 三三

一通 三三

一通 三六

一通 三六

二冊 三六

一冊 三三

半 三三

吹金代五步増被仰渡書 天保九年

(吹金代半双増之仰渡写) 大井隼人 弘化四年八月

御銅山方御備江宕双宕步上納手控 大葛金山 安政二年八月

御金藏老双返上 手控 安政二年八月

御普請江向被指登候吹金引替双替 辰年四月

(大葛吹金塩詰金塩銀双替差引覚) 吹金代御渡下ケ之願書并差引覚共控 荒谷慶八・忠一郎 文久元年一月

金本位当時御買上直段定 卯年二月 附院内金大葛金兩替之覚

\*金位双替考課算術秘書 荒谷桂吉

見 積 \*八盛銀山買師小普請入料料帳ひかへ 荒谷忠兵衛 文化一〇年四月

\*大葛金山市鳥沢大濠御普請 日数 積帳 天保三年五月

\*市鳥沢永久普請入料料帳(草稿) 当時御入料品代積書上帳 大葛金山(明治三年)

老ヶ月出金代積共中勘書上帳 荒谷桂吉 (明治三年) 四月

仮普請入料料并飯料代諸色代共書上帳控 戸沢銅山取扱積

横長半

横長半

一通 四四

一冊 二六

一冊 二六

一冊 六六

二通 三三

一冊 三三

二通 四四

一袋 三三

八通 三三

一冊 三三

二冊 三三

一枚 三三

一冊 二六

一冊 二五

一冊 二五

収 支

白土儀右衛門様御登山之節大葛金山 正月迄 勘定帳 荒谷慶八・忠兵衛 文政九年	半	一冊	一五
勘定書上帳 高山新兵衛 天保一五年四月	横長半	二冊	一〇五
久保田勘定書上帳 勘定書共 兵治 嘉永元年五月	横長半	一冊	一〇五
久保田勘定書上帳 荒谷兵治 嘉永元年	横長半	一冊	一〇五
大福帳 嘉永二年	美大四半	一冊	一〇五
久保田諸用事扣 荒谷忠一郎 安政七・文久二年	横長半	二冊	一〇五
久保田諸用事扣 荒谷忠一郎 安政七・文久二年	横長半	二冊	一〇五
久府諸用控 荒谷忠一郎 文久三年八月	横長半	一冊	一〇五
金山米錢勘定帳 元治元年二月	横長半	一冊	一〇五
金山米錢惣々受払勘定帳 慶応二年一月—三年二月	横長半	一冊	一〇五
御山米錢指引帳 慶応三年三月	横長半	一冊	一〇五
金錢勘定帳 慶応三年三月—二月	横長半	一冊	一〇五
金錢受払寛 慶応四年二月—(明治二年三月)	横長半	一冊	一〇五
寅十月辰四月迄御仕入拝借并金銅代指引書上帳 大葛金山(明治元年) 閏四月	半	一冊	一〇五
金銀錢勘定書上帳 荒谷宇吉 明治元年十一月—二年二月	半	一冊	一〇五
辰年分 巳年分米金請払指引帳 明治三年一二月	横長半	合一綴	二
当年分			
差引書寛 大葛金山 支配人荒谷桂吉 辰年一二月	半	一冊	三三

(寅十月迄) 大葛金山差引勘定寛

金銅損益勘定帳 卯年九月—巳年七月	横長半	一冊	七
月々損益勘定帳 卯年九月—辰年三月	横長半	一冊	六
未年中久保田差引帳より渡金寛	横長半	一冊	一四
指引通 卯年二月—巳年六月	横長半	一冊	一四
残物惣纏	横長半	一綴	三六
大葛金山算用書類 荒谷忠右衛門・忠一郎・桂吉等 天保—明治八年	二〇通	九〇	
(大葛金山雜勘定書類) 天保—元治	一〇綴	五	
卯十一月分戸沢銅山勘定書類 書状共 荒谷武右衛門	三冊	三三	
雜勘定書類	一通	三三	
雜勘定書類	五通	三〇	
雜勘定書類	一袋	三五	
經 費			
尾太銅山元文三年十一月迄寛保三亥三月廿一日吹仕廻迄御有余高上納差引留書 宮崎忠兵衛・喜兵衛 宝曆三年	半	一冊	二六
*御巡見様御登山ニ付入用明細帳(控) 荒谷和三郎(寛政元年)	半	一冊	一〇
*八盛古銀山鋪岡普請入方勘定帳ひかへ 荒谷忠兵衛(文化一〇年)	横長半	一冊	三三
*八盛銀山本番切山普請入料帳ひかへ 荒谷忠兵衛 文化一〇年四月	半	一冊	三七
*市鳥沢御普請延間数書上帳 荒谷忠兵衛・慶八 巳年四月(天保四年)	半	一冊	三

鉛仕上り中勘書上 太良山 天保一四年七月 半 一冊 二六

大葛燒金諸懸物取調 杉原順吉 巳年五月  
(安政四年) 一通 三九

\*院内銀山塩燒詰金吹入料受取手形 長谷川吉太郎・那源勘定場 杉原謙治・荒谷慶八宛 安政五年 二通 四四

當時年中山内相続入目覚 荒谷慶八(安政五年)五月 半 一冊 三〇

沓ヶ年入料取調帳 荒谷桂吉 (明治三年) 半 一冊 二〇

沓ヶ月入目高取調帳 荒谷桂吉 (明治三年)四月 半 一冊 二三

金鉾買入直段并諸渡物直段共書上帳 荒谷桂吉 (明治三年)四月 半 一冊 二四

\*吹金買入直段并同雇手間代書上控

沓ヶ年入料高帳 半 一冊 二五

大葛金山沓年中諸品入用覚(草稿) 二通 二九

大葛金山御普請入料年割積覚 一通 四六

亥年春上川原諸懸覚 子年二月 一通 五〇

院内銀山大神宮奉納鰯口注文(控) 寛政元年 一通 四〇

子十二月差引書 本屋永治 荒谷兵児宛 元治 横長半 一冊 四〇

(中村六兵衛勘定書) 中村六兵衛 荒谷兵治宛 元治二年 横長半 一冊 四〇

覚御通 中村六兵衛 荒谷宛 明治三年三月一七日 横長半 一冊 二六

大葛金山諸入方取纏帳 慶応二年 半 一冊 二六

大葛金山焚炭薪方附添御用旅籠代請取手形 荒谷忠兵衛宛 寛政一〇年 三通 四四

(諸請取証文綴) 秋田・久保田商人等 大葛金山 荒谷宛 嘉永一明治 二綴 四六

(鉾夫等酒肴料受取証) 出収科 荒谷桂吉宛 明治二二年六月 一通 二七

勞 賃

亥正月々十二月迄沓ヶ年分掘子懸内仕訳覚 大葛金山 一通 四〇

\*吹金買入直段并同雇手間代書上控 子年四月 半 一冊 二五

金 融

拝 借

\*大葛金山七枚鋪水拔普請料米拝借願(控) 荒谷忠右衛門 高橋縫殿右衛門・神沢八郎右衛門宛 元禄四年 一通 四四

(山神祭事料寄附願草稿并控) 荒谷忠兵衛 (文化一四・文政二年) 半 三冊 二六

(御上より拝借金之覚) (文政六・七年) 横長半 一冊 四〇

\*鍵懸沢普請料差引覚 (文政二年) 一通 二五

御貸下金願書 大葛金山控 荒谷忠兵衛(文政一二年)一〇月 半 一冊 二〇

(大葛金山荒窮御救歎願書控) 荒谷忠兵衛 天保六年四月 半 一冊 二五

(大葛金山勘定覚書上) 天保六年四月 半 三冊 二五

大葛出銅代金前借願書(控) 荒谷忠兵衛・同慶八 天保九年	半	一冊	六壹	大葛金山拝借金被仰付御達書(控) 銅山方(安政六年)	半	一通	六六
(大葛金山吹用炭并鋪内留木拝領願書控) 荒谷忠兵衛・慶八 天保九年	半	一冊	六五	(大葛金山拝借金被仰付御達書写) 御勘定方	半	一通	六六
(来子年々卯年迄返上錢積り勘定書上) 天保一〇年	半	一冊	六五	御普請料拝借江返上御金蔵納手形 御勘定方	半	二通	六〇
(大葛金山上納銅前借願書扣) 天保一〇年	半	一冊	六三	(大葛金山神祭礼料米拝領願書控) 荒谷忠右衛門 卯年一〇月	半	一冊	六六
*大葛金山越鳥沢大切普請料拝借請取通(控) 荒谷忠右衛門・同慶八 天保一一(弘化元年)	横長美	一冊	六〇	御備差引覚 辰巳年	横長半	一冊	三三
*市鳥沢御普請料拝領願書控) 草稿共	半	二通	六六	(大葛金山御救ノタメ金千両拝借願書下書) 申年五月	半	一通	六六
*大葛金山市鳥沢惣浚御普請入料拝借願(控) 支配人荒谷忠右衛門・見習同慶八(天保一三年)	半	一冊	六五	(申年御普請料拝借金残分覚) 大葛金山 申年二月	半	一通	六三
御銀御高備錢通用預証文并戻証文 荒谷慶八・忠一郎 弘化二・四年	二通	六五	六五	大葛金山御前借願書(控) 荒谷中兵衛・同慶八 亥年一二月	半	一冊	六八
辛勞免高拝借証文 荒谷慶八・同忠一郎 白土右門宛 弘化四・嘉永二年	二通	六五	六五	(大葛金山出金代前借願書草稿) 三月	半	一通	六〇
*銅山御飯料米拝借証文 荒谷慶八・同忠一郎 嘉永五年	一通	六三	六三	(大葛金山備財秘策ニ付口上書)	半	一通	六六
*御銅山方御備差引書上覧 大葛金山控 嘉永五年八月一萬延元年一二月	半	一冊	六〇	返 納			
大葛金山御前貸金願書并被仰渡書(写) 安政四年	一通	六三	六三	午年上納手形諸方受留 仕切書共 加藤勘右衛門 荒谷忠兵衛宛 文政五年	七通	六〇	
(院内銀山再興拝借金願書并諸取調書上控) 荒谷忠一郎 安政五―文久二年	半	一冊	六三	木山運上方拝借金返上受留 木山運上方 荒谷忠兵衛宛 文政五・六年	四通	六九	
(大葛金山山内扶助拝借金願書草稿) (安政六年)	一通	六六	六六	銅山方拝借金返上受取手形 附屬書付共 吉川惣右衛門 荒谷忠兵衛宛 文政五・七・天保九年	一四通	六三	
(大葛金山拝借金請取手形控) 惣山代杉原謙治等 御勘定方宛 安政六・万延元年	二通	六七	六七	諸拝借金返納受留 加藤勘右衛門 荒谷忠兵衛・同慶八宛 文政六―文久二年	三〇通	六二	
				(湊上納役所拝借金利足上納受留) 湊上納役所 荒谷忠兵衛宛 天保四・六・七年	一〇通	六六	

未年御町方拝借金返上手形 御町処備方 荒谷忠兵衛宛 天保六年

九通 三九

銅山方御備拝借金元利上納受留 渋谷市右衛門 荒谷忠兵衛宛 天保六・八年

五通 三〇

未年湊塩座返上手形〔塩方拝借金返納請留〕 塩方 荒谷忠兵衛宛 天保六年

九通 三九

未年銅山方御備返上手形 長谷川金次 天保六年

九通 三〇

月々御備之返上金受留手形 長谷川金治 荒谷忠兵衛・同慶八宛 天保七・八年

一〇通 三〇

諸上納役処年賦返上金受留 諸上納役処 荒谷慶八宛 天保八―嘉永三年

一七通 三〇

銅山御備口拝借金返納受留 御山師長谷川吉太郎 天保九―嘉永二年

一三通 三〇

大葛金山飯料米代拝借金返納受留 御勘定方 荒谷忠兵衛・杉原謙治宛 天保九―嘉永三年

二〇通 三三

当亥年十月より金銭返上書上帳 大葛金山 (天保一〇年)

半 一冊 三三

大葛金山拝借金年割上納請取手形 御勘定役人 杉原謙治・荒谷慶八宛 天保一〇―文久二年

二四通 三五

(銅山方) 拝借金上納受留 村田勘兵衛・村田吉兵衛 荒谷忠右衛門・同慶八宛 天保一〇・嘉永元―四年

八通 三六

湊塩方役処年賦返納金受留 塩方役所 荒谷慶八宛 天保一〇―弘化四年

八通 三六

大葛金山飯料米代拝借金月割上納受留 加藤主税他二名 荒谷忠兵衛宛 天保一一―十四年

四五通 三三

(白土右門受取手形) 荒谷慶八宛 弘化二―嘉永四年

六通 三七

大葛金山飯料米拝借証文 荒谷慶八・同忠一郎 弘化四年

一通 三六

(大葛金山) 拝借金返上年割申渡書写 勘定所 惣山下代宛 弘化四年

一通 三六

大葛金山越鳥沢水拔御普請料拝借金御金蔵へ上納御請書 御勘定方加藤主税 惣山下代杉原謙治宛 弘化四―嘉永四年

六通 三〇

(御貸銀) 年賦上納受取手形 御貸銀方川井三之丞 荒谷慶八宛 弘化五―嘉永三年

五通 三六

前沢鉛山御仕入拝借金返上御受留 嘉永二年

四通 三三

貸借

金子借用証文 荒谷忠兵衛 加藤右衛門宛 文政五・六年

二通 三九

金子借用証文 荒谷慶八 天保二―明治三年

三六通 三九

金子借用証文 荒谷慶八 長谷川吉太郎・大坂屋喜三郎宛 天保一五・弘化二年

三通 三九

當時借用錢勘定覚 嘉永二年

一通 三九

大沢尾蔵様御差引覚 荒谷慶八 酉年三月 借方元利取纏留 安政六年五月

一通 三九

金山借金受払覚帳 慶応三年六月 借財年賦取控 明治三年八月

一冊 三三

山内并林下諸払書上帳控 大葛金山 (明治三年一〇月)

一冊 三九

大葛金山滞払数口書上帳 山元控 明治六・七年 半 二冊 三〇



銅山方送り状 荒谷忠一郎宛

二通 六六

大葛沢道普請之願書控 大葛金山荒谷忠兵衛  
未年二月

半 一冊 六六

用留・日記

用 留

享保拾二年書留 (享保二〇年)

半 一冊 三九

御用記 荒谷富訓 寛政一二年

半 一冊 三〇

万年録 (諸仰渡寛) 文政二十四年

半 一冊 三〇

諸用記 文政八年

横半半 一冊 三〇

公用控 (天保一〇—弘化二年)

横半半 一冊 三〇

諸用録 天保一三—一五年

横半半 一冊 三〇

(御用雜記) 天保一四—文久二年

半 一冊 三三

諸役処用扣 嘉永三年一月

横半半 一冊 三〇

被仰渡書諸願書 御用状御登山 控 荒谷富謙 嘉永七年

半 一冊 三三

御用控 荒谷富謙・同桂吉 安政五—慶応四年

半 三冊 三三

御軍事御用控 荒谷富延 慶応四年七月

半 一冊 三三

戦争後諸取調書上帳扣 明治二年

半 一冊 三三

(大葛金山諸用留) (殘闕) 明治三年

半 一綴 九六

諸要用書留

横長半 一冊 三三

十一月八日寅松出立久府用事控

横長半 一冊 三七

(大葛金山願書類草稿)

九通 九六

日 記

辰之年日記 享保九年一月

半 一冊 三七

公諸日記 荒谷忠一郎 弘化四—五年

横半半 三冊 三九

当用集 荒谷和二郎 天保九年一月

横半半 一冊 三〇

出府日記 安政三・五・六年

横半半 三冊 三〇

日記 荒谷富謙

横半半 三冊 三〇

(荒谷桂吉日記) 明治元・二年

横半半 二冊 三三

雜 録

万要集 荒谷忠兵衛 明和四年

横美半 二冊 三九

金銀御吹方次第 万や長助 町枝作内宛 文政元年八月

半 一冊 三三

銀銅鉛山録 文政一〇年六月

横半半 一冊 三〇

秘伝書 (天文・薬石) 荒谷和二郎 天保六年

横美半 一冊 三三

鉾山書類 安羅谷 明治二四—四五年

美 一冊 三九

(大葛金山関係雜書付類)

七通 三三

(大葛金山関係雜書状)

一八通 三三

(大葛金山雜録)

二綴 三七

(大葛金山雜録)

二綴 九六

鉾業投資

鉾業投資

八森銀山

試掘願 荒谷鉾多 明治一二年

半 一冊 三〇

八森銀山検査録 荒谷鉾多 明治一二年

半 一冊 三九



林ノ沢銀山

北秋田郡八木橋村林ノ沢銀山約定書 荒谷桂吉  
明治一八・二〇・二二年

三通 五七

炭谷鉾山

借区開坑願 荒谷桂吉 明治二二年四月

美 一冊 六一

借区開坑願 荒谷桂吉 明治二二年四月

半 一冊 一〇

北秋田郡独館村炭谷沢金銅鉾場仮坑区券  
農商務省 荒谷桂吉宛 明治二二年

一校 五九

炭谷鉾山鉾業明細表 附絵図并関係書類  
荒谷桂吉 明治二二・二七・三三年

一綴 五四

北秋田郡東館村炭谷鉾山試掘願書(控) 荒谷鉾  
多 明治二三年

一通 五〇

金銅鉾採掘特許願 明治二六年

一通 五三

炭谷鉾山鉾業施業案 荒谷桂吉 明治二六―三  
二年

五通 五三

炭谷沢官地年期借地願書并請書(控) 附図共  
荒谷桂吉代理人長岐茂幹 明治二七年

二通 五一

炭谷沢鉾山特許權讓渡書類 荒谷桂吉・遠藤吉  
平・石田兼吉 明治二七―二九年

一綴 五二

炭谷鉾山鉾業施業案 明治三〇年

美 一冊 五三

芦内沢銅鉾区

北秋田郡大葛村担官山芦内沢銅鉾試掘願(控)  
略図面添 荒谷桂吉 明治二二年

半 一冊 五二

(鉾区讓渡契約部理代人委任状控) 荒谷桂吉  
明治三八年五月

一通 二四

大卷銀山

(大卷銀山營業組合精算勘定書) 添受取証写  
三井物産会社小山長十郎・荒谷桂吉代人荒谷可省  
明治二二年九月

美 一冊 一〇七

(大卷銀山勘定書添書) 荒谷可省 明治三三  
年一月

一通 二二

白ヶ沢銀鉾

秋田県仙北郡神代村白ヶ沢銀鉾試掘指令書状  
神代村々長平岡長藏 荒谷桂吉宛 明治二三年

一通 五五

鷺合鉾山

鷺合鉾山借区願 控共 荒谷桂吉 明治二四年

美 二冊 五七

鷺合鉾山試掘願書 明治二四―二六年

一綴 五八

鷺合鉾山標品御届書(控) 荒谷桂吉 鉾山局  
長和田熊四郎宛 明治二四年

美 一冊 五九

鷺合鉾山絵図面引換願 明治二四年

一綴 五七

岩手県西和賀郡湯田村鷺合鉾山鉾業施業案 明  
治二六―三三年

六通 五〇

鷺合鉾山鉾業施業案 明治三〇―三八年

一綴 五四

鷺合鉾山坑内実測図 明治三〇―四二年

二〇校 五二

(鷺合鉾山鉾区訂正願書草稿) 荒谷桂吉 明  
治三六年

一通 五三

鷺合鉾山諸経費決算簿 明治三九年

半 一冊 五五

鷺合鉾山鉾業復本 明治四一―四三年

美 一綴 五六

鷺合鉾山休業届書類 明治四三―四五年

半 一綴 五〇

(岩手県鷺合森鉾山試掘約定書) 兎見者高橋  
民吉・同由藏 鉾業主荒谷桂吉 明治

半 一冊 五六

鷲合鉾山燒鉾場設計書并図 (草稿)

半 一冊 二枚 一〇九

寺之沢金鉾

北秋田郡大葛村寺之沢金鉾試掘延期願 (控)  
明治三四年

半 一冊 一枚 五三

(大葛村寺ノ沢金鉾試掘出願地区) 明治三四年

三枚 六六

北秋田郡大葛村寺ノ沢金鉾試掘認可書 附関係書類  
仙台鉾山監督局 明治三四年

一綴 一通 五五

椿 銀 山

椿銀山採掘鉾石売買契約書 売渡人乳井久右衛門 買受人荒谷桂吉 明治三五年

三通 五五

借入金証書 荒谷桂吉 第四十八国立銀行宛  
貸付金返金請取証 第四十八国立銀行 荒谷桂吉宛 明治二八—二九年二月

四通 一〇七

菅礼治書状 荒谷桂吉宛 (明治二九年) 一月

一通 一〇九

(椿鉾山勘定書) 菅礼治 荒谷桂吉宛 明治二九年三月

八通 一〇六

千葉氏勘定書 (明治二九年三月)

一枚 一〇八

(椿鉾山宮越勘兵衛(貸付金受取証) 大久保銀行 荒谷桂吉宛 明治三三年二月

一通 二〇四

金員貸借契約証書謄本 債権者荒谷桂吉・明石万之助・大久保直吉・菅礼治 債務者乳井久右衛門・宮越仁吉郎 公証人堀清以 明治三四年一月

一通 二〇四

金員貸借契約証書謄本 債権者大久保銀行理事 大久保直吉 債務者宮越仁吉郎・乳井久右衛門 公証人堀清以 明治三四年一月

合一通 二〇四

(債券証書及附帯契約書保管并椿鉾山売鉾代金切半配当証書写) 荒谷桂吉・明石万之助 明治三四年五月

一通 二二三

(椿鉾山貸付金利子受取証) 塩田田平 荒谷桂吉宛 明治三四年六月

二通 一〇九

(貸付金元金返済受取証) 借入金証書(返証文) 添状共 大久保銀行 荒谷桂吉宛 明治三四年九月

四通 二〇五

(貸付金利子椿銀山配当金差引計算書) 添状共 大久保銀行 荒谷桂吉宛 明治三四年九月

二通 二〇六

(貸付金利子椿銀山配当金差引計算書) 添状共 大久保銀行 荒谷桂吉宛 明治三四年一月

二通 二〇七

(資金貸付組合契約証) 大久保直吉・荒谷桂吉・菅礼治・明石万之助 明治三四年

一通 二一〇

(椿貸付配当金入金通知書) 大久保 荒谷桂吉宛 一二月

一通 二〇五

椿鉾山稼行組合契約書 明治三五年

四通 五五

椿銀山状況報告 明治

四通 五五

(負債資産計算書)

一通 二二三

岩館鉾山採掘權書入登録書) 小坂町小笠原長治・小坂鉾山石田兼吉・能代渚町宮越勘兵衛 秋田鉾山監督署長小花冬吉宛 明治二八年十一月

二通 二〇六

(岩館鉾山稼行資金之内出金証書) 宮越勘兵衛 荒谷桂吉宛

二通 二〇六

大新沢鉾区  
北秋田郡長木村大新沢試掘權讓渡約定書 関係書類共 近藤春吉・荒谷桂吉 明治二八年

三通 五五

冷水鉾山  
(鉾業用地所借地願請書類写) 荒谷桂吉代証人 長岐茂幹 田中林務官宛 明治二九年

三通 五五

冷水鉦山実査報告書(写) 明治三七年

上保原金山

上保原金山略記(控) 斎藤賢治 明治三四年

半 一冊 五三

湯田村銅鉦区

(銅鉦採掘鉦区訂正願不許可通達) 訂正図添  
農商務大臣松岡康毅 荒谷桂吉宛 明治四一年七月

一通 一〇〇

上富良野村硫黄鉦

北海道上富良野村硫黄礦試掘実測図添書 高橋  
榮作 明治

一通 六三

鉦業権譲渡

(八木橋村・谷地中村銀鉦借区・銀鉦試掘荒  
谷桂吉所有分譲渡為取換約定書) 譲渡人荒  
谷桂吉 譲受人三井物産会社益田孝 明治二二年  
三月

一通 二五

(八木橋村・谷地中村銀鉦借区・銀鉦試掘箇  
所譲渡立会精算勘定利益配分契約書) 荒谷桂  
吉・小山長十郎代理高田富太郎 明治二二年六月

一通 二六

(株券譲受証) 尾去沢鉦山阿部潜 荒谷桂吉宛  
明治一八年九月

一通 二〇

鉦山監督署通達

秋田 鉦山監督署通達書類 荒谷桂吉・同鉦多宛  
盛岡 明治二六―三五年

一二通 二三

繪 図

鉦山繪図

大葛金山

南北内大葛金山領支配中山沢繪図 中屋六兵衛  
図 元文元年

80×70 一鋪 七〇

大葛金山繪図 寛政一〇年

90×58 一鋪 七〇

(大葛金山鋪岡繪図草稿) 文政元年

280×135 一鋪 七〇

大葛金山御掛山岡繪図 文政八年

80×62 一鋪 七〇

(大葛金山惣繪図草稿)

190×130 一鋪 七五

(大葛金山略繪図)

美 一枚 七六

(大葛金山岡繪図)

48×90 一鋪 七〇

大葛金山領 金山沢 一鳥沢 岡繪図

286×140 一鋪 七六

南北内大葛古金山鋪図

133×105  
135×20  
130×105 三鋪 七〇

秋田郡南北内大葛金山領御山領鋪内繪図料  
扣

78×176  
134×161  
91×110 三鋪 七〇

大葛金山鋪古繪図

170×160 一鋪 七二

(大葛金山鋪繪図) 文政元年

200×75 一鋪 七二

No 15 複製済 大葛金山鋪絵図	大葛金山鋪絵図	110×65	一鋪	七三	(大葛金山赤山大切鋪絵図)	270×105	一鋪	七三
	(大葛金山鋪絵図)	412×265	一鋪	七四	赤山大切長兵衛鉞道鋪之絵図 文化五年	60×40	一鋪	七四
	大葛金山御普請料絵図	290×200	一鋪	七五	(赤山大剪廊下奥鉞道図)	110×60	一鋪	七五
	(大葛金山鋪絵図)	290×190	一鋪	七六	赤山大下盤鉞江大戊走ノ乗掘図 天保三年	90×54	一鋪	七六
	(大葛金山鋪絵図)	300×210	一鋪	七七	(大葛金山赤山鋪七枚鋪図)	75×39	一鋪	七七
	複製済 大葛金山鋪絵図	350×320	一鋪	七八	赤山本館根合惣浚水抜鋪取合絵図	420×132	一鋪	七八複製済
	(大葛金山鋪絵図草稿)	350×140	一鋪	七九	(赤山大切鋪五拾六本樋根合ノ七人組根合等 迄惣浚水抜鋪取合絵図) 安政四年	176×180	一鋪	七九
	(大葛金山鋪絵図草稿)	40×32	一枚	七〇	大葛金山赤山鋪當時御普請箇所略絵図下稿 安政六年	45×66	一鋪	七〇
	複製済 大葛金山山水抜料略図	330×225	一鋪	七三	大葛金山赤山鋪普請箇所略図	44×65	一鋪	七一
	(大葛金山北平鋪絵図)	180×105	一鋪	七三	赤山大切下盤鉞川下新切中段根探シ乃図	91×120	一鋪	七二
	北平御鋪絵図	68×90	一鋪	七四	赤山大下盤寅申鉞ノ図	145×113	一鋪	七三
	北平大切鋪取明料図 文化五年	35×73 47×33	一枚	七五	(大葛金山 赤山大剪鋪 繩繼図) 七左衛門大剪鋪	240×102	一鋪	七四
	北平大切鋪図 文政元年	69×33	一鋪	七六	大葛金山七枚赤山対図并行人砦下盤之図 合掌鋪・弥八郎鋪・洞鋪之図 天保一一年	175×240	一鋪	七五
	北平大切鋪絵図	62×34	一鋪	七七	大葛金山七枚沢大剪鋪図	172×40	一鋪	七六
	No 19 複製済 大葛金山赤山大切鋪内絵図	大葛金山赤山大切鋪内絵図 元文	350×30	一鋪	七六	大葛金山七枚大切鋪図	470×225	一鋪
大葛金山赤山大切鋪図 文化八年		190×135	一鋪	七九	大葛金山七枚大切之内丑之助付口鋪図 文化七 年	65×47	一鋪	七八
(大葛金山赤山大剪鋪絵図)		160×60	一鋪	七〇	七枚大切鋪之内新剪貫合ノ奥迄之図	59×38	一鋪	七九
複製済 大葛金山赤山大切ノ上通鋪図		300×340	一鋪	七三	大葛金山七枚沢之内新口鋪図		一鋪	八〇
複製済 大葛金山赤山大剪鋪絵図		400×150	一鋪	七三			一枚	八〇

(大葛金山七枚大切鋪繪図)	九枚	三	87×108	一鋪	三	新口鋪 大葛金山山神鋪繪図 享和三年	110×82	一鋪	三
七枚沢弥八郎鋪繩繼繪図	一鋪	六	59×74	一鋪	六	沢鋪下り詰々大根合納豆根合迄繩繼繪図 天保四年	174×120	一鋪	七
秋田郡南比内大葛金山鍵懸沢大剪鋪料岡圖 文化三年	一鋪	三	220×45	一鋪	三	(沢鋪并七枚大切鋪図)	59×38	一鋪	六
大葛金山鍵懸沢口大剪鋪図	一鋪	三	300×73	一鋪	三	大葛金山瀧耳鋪図	60×78	一鋪	六
大葛金山鍵懸大切之内北平煙々赤山之内挺廊 下手前岩番樋道下り詰羽返水道抜合之図	一鋪	三	125×31	一鋪	三	大葛金山新切鋪繩繼繪図 文政一〇年	72×35	一鋪	三〇
鍵掛百三拾目鋪長九郎青盤繪図	一鋪	三	87×64	一鋪	三	大葛金山天狗平金切羽鋪図 (紙背)大湯沢銅鉛山御調人数目録 享和三年	60×81	一鋪	三
鍵懸大切鋪繪図	一鋪	三	67×48	一鋪	三	大葛金山領天狗平・稻荷鋪并ニ瀧耳・七枚・ 赤山新口対図 嘉永六年	124×138	一鋪	三
大葛金山鍵掛沢大切鋪凡仮図	一鋪	三	118×91	一鋪	三	大葛金山四十五間タテ入川下天狗平洞鋪根合 下り詰ト四角出戸送り沢鋪根合迄ノ繪図	273×160	一鋪	三
鍵掛百三拾目長九郎羽切り槇木山当繪図	一鋪	三	200×120	一鋪	三	(大葛金山新大切鋪繩繼繪図)	340×60	一鋪	三
鍵懸沢大切々赤山大切鋪之内一盤鉞迄切山惣 鋪繪図	一鋪	六	90×240	一鋪	六	(大葛金山新大鋪図)	280×110	一鋪	三
鍵掛姥鋪大川上八貫五百目根合卷卷之図	一鋪	六	80×70	一鋪	六	大新沢新大切鋪図	53×46	一鋪	三
(鍵掛姥鋪廊下図)	一鋪	六	44×169	一鋪	六	大葛金山下野鉞鋪図	360×68	一鋪	三
(大葛金山合掌鋪寅申上盤鉞之図) 草稿共 天保三年	二鋪	三	44×73	二鋪	三	(大葛金山泉屋鋪繪図)	65×90	一鋪	六
(大葛金山合掌鋪図)	一鋪	三	83×89	一鋪	三	大葛金山堅荊新口鋪図	83×45	一鋪	三
合掌鋪図	五鋪	六		五鋪	六	大葛金山堅荊平御普請所繪図 享保二年	40×30	一鋪	六〇
(百三十目鋪・合掌鋪・七枚鋪共合鑑)	一鋪	三	125×90	一鋪	三	(大葛金山市鳥沢総浚水貫鋪惣料図)	55×79	一鋪	六
						市鳥沢惣水道地並ニ北平鋪大根合抜戸々赤 山鋪下盤本柄根合迄水道添徑共料圖 (文化 一三年)	美	二枚	三
						市鳥沢御普請料鋪繪図	106×67	一鋪	六

山館沢略繪図 安政五年	35×35	一枚	六五	新沢銅山			
比内山館沢之内天狗沢岡繩図	125×30	一鋪	六六	新沢銅山之図(草稿) 文化	半	二枚	六一
(見立沢上リ鋪繩繼繪図) 天保七年	97×38	一鋪	六七	北比内新沢之内赤沢銅山之図	32×24	一鋪	六一
見立沢鋪之図	34×30.5	一鋪	六八	大開古鉛山			
三百貫戌走リノ大下盤鉋江剪方繪図 大葛御直 山高田氏図 安政二年	100×24	一枚	六九	秋田郡南比内大開キ古鉛山図 文化七年	57×37	一鋪	六四
長兵衛鉋鋪図 (紙書) 荒谷忠兵衛富文書状	46×35	一鋪	七一	大湯沢鉛山			
(堺沢大切釜口ノ山神平新口釜口迄鋪図)	130×70	一鋪	六三	北比内長走村之内陣場村地形大湯沢鉛山下々 鋪図 荒谷忠右衛門 寛政一二年	25×35	一枚	六〇
(山神平大切鋪并境沢大切鋪図)	125×70	一鋪	六四	冷水銀鉛山			
高盛鋪図	95×47	一鋪	六五	冷水銀山之図	160×160	一鋪	六〇
高盛下盤鋪料繪図	68×75	一鋪	六六	北比内冷水鉛山中鋪図	63×30	一枚	六三
(泥海沢大日影之内菅沢ノ南部領上ニ新田千 本沢之内狸沢迄繩繼繪図) 草稿共	200×177 120×120	二鋪	七三	冷水鉛山煙滯道鋪図	半	一枚	六三
立又沢銅山				前沢鉛山			
(秋田郡立又沢銅山岡繪図)	41×31	一枚	七七	秋田郡早口村之内比立内沢前沢鉛山鋪岡之図	305×95	一鋪	六七
曲田沢金山				前沢鉛山鋪繪図	31×47	一鋪	六六
曲田沢金山図 文化一二年	67×25	一鋪	七九	八櫃鉛山			
曲田沢ノ内勝太卜沢金山鋪繪図 文化一二年	100×50	一鋪	七九	秋田郡北比内早口沢之内八櫃鉛山略図 荒谷桂 吉図 明治三年	24×34	一枚	六九
戸沢金山				中ノ沢金堀沢瀨ノ沢鉛山			
(南比内猿間村戸沢金山岡繪図草稿)	半	一枚	八四	(秋田郡北比内早口村 中ノ沢 金堀沢鉛山鋪図) 瀨ノ沢	63×92	一鋪	六五
戸沢銅山之内芋樋内鶏沢鋪繪図	34×97	一鋪	八五	(秋田郡早口村略繪図)	100×96	一鋪	六一
鶏沢大切鋪ニ番鋪繩繼繪図 文化一二年	80×80	一鋪	八六	長間金山			

長間金山本番鋪繪図  
(裏面)入峯勸化牒 南長有鑲 文政二年

長間金山之図

阿仁銅山

(秋田郡向銀山惣繪図)

(秋田郡向銀山繪図)

大阿ニ向銀山山元喜兵衛大切鋪繪図 寛政元年

阿仁銅山見分繪図

附田中某書状 荒谷和三郎宛

阿仁三枚銅山沢敷砦通り略図 荒谷富謙写  
安政五年

赤沢金山

(赤沢金山略図草稿)

平鉛山

山本郡平鉛山鋪岡図 文化

山本郡平鉛山鋪岡図并矢櫃山鋪図 文化六年

山本郡平鉛山七枚沢繪図(草稿) 荒谷忠右衛門  
文化六年

平鉛山 清五郎 三之丞 大切鋪繩繼図 荒谷忠右衛門 文  
化六年

平鉛山御普請処料覚并鋪繪図 荒谷忠右衛門  
文化六年

平鉛山略図

八森銀山

200×78 一鋪 八〇

78×62 一鋪 三〇

95×100 一鋪 五五

87×175 一鋪 七五

154×85 一鋪 八三

二三枚 一通 八五

56×66 一枚 八五

34×24 一枚 八〇

122×85 一鋪 八七

半 一三枚 八〇

98×61 一鋪 八〇

91×17 一鋪 一〇

半 一冊 八二

半 一枚 八三

(山本郡八森銀山惣繪図 草稿) 荒谷忠兵衛 文  
化一〇年

山本郡八森古銀山図

(八森銀山略繪図)

(八森銀山領略繪図)

八盛古銀山能多上盤鉈水拔普請之図

八森銀山鋪内砦通り并此度御普請処料繪図面

八森銀山之図(八森銀山壹貫五百目比良之内姥  
鋪之図)

(八森銀山姥鋪・掃鋪・西平大切鋪繩繼図)

八森銀山姥鋪・西平大切鋪繪図

(八森銀山姥鋪當時働所繪図)

(八森銀山姥鋪廊下図)

松岡銀山

松岡銀山領図面 天保一二年

松岡山惣上左衛門大切鋪図

(松岡銀山鋪図)

院内銀山

(羽州雄勝郡院内銀山惣繪図) 宝永四年

羽州雄勝郡院内銀山 鋪繪図 五十嵐周舉画 寛  
政元年

羽州秋田雄勝郡院内古銀山惣繪図 天保一一年

115×180 一鋪 八三

122×99 一鋪 八四

40×28 一枚 八五

35×25 一枚 八六

100×25 一鋪 八七

96×106 一鋪 八六

50×80 一鋪 八九

65×148 一鋪 八〇

160×70 一鋪 八三

48×80 一鋪 八三

62×70 一鋪 八三

90×60 一鋪 八五

35×24 一枚 八七

100×50 一鋪 八五

230×155 一鋪 八六

132×115 三鋪 八〇

132×96 一鋪 八四

院内銀山小南沢大剪鋪図	荒谷忠右衛門	安永三年	140×838	一鋪	〇三	南部領鉾山	奥州南部鹿角郡尾去沢銅山領図	240×210	一鋪	〇三	
院内銀山小南沢大剪鋪繪図	安永三年	340×22	一鋪	〇三			南部白根金銅鉛山図	137×95	一鋪	〇三	
雄勝郡院内銀山鋪図	寛政二年	220×105	九枚	〇四			南部嶺山金山鋪繪図	120×120	一鋪	〇三	
(院内銀山大切鋪繩繼図)	文化二年	93×145	一鋪	〇五			南部嶺山龜鋪栄昌鋪図	90×40	一鋪	〇三	
(雄勝郡院内銀山大切鋪繪図)		140×95	一鋪	〇五			(裏面)山中洞鋪中段羽返の大洞鋪迄ノ図	140×78	一鋪	〇七	
六番鋪釜ノ口ノ漆ノ木七間三尺厚身館付口迄之図	荒谷和三郎	天保七年	143×15	一鋪	〇七		津輕領鉾山				
院内銀山大浚畔図	天保二年	半	三枚	〇六			津輕御領伊良川銀山繪図	文化一〇年	49×39	一枚	〇六
院内銀山	十分一大切鋪	天保一二年	110×80	二鋪	〇六		津輕湯沢銀山鋪繪図	文政一〇年	98×35	一鋪	〇六
	近年大盛鋪		92×64	二鋪	〇六		津輕領尾太并寒沢銀山惣繪図		170×115	一鋪	〇六
雄勝郡院内銀山	小南沢	鷹巢	90×122	一鋪	〇五		尾太銅山鋪内図		143×123	一鋪	〇六
院内銀山小南沢鷹巢両鋪去丑三月中ノ当寅六月中迄取明惣間数取調図			170×86	一鋪	〇五		不明 鋪				
院内銀山大切大川上繪図			84×74	二鋪	〇五		八ツ山源助鋪五厘一間繪図		半	一枚	〇六
院内銀山	姥	鋪図	90×74	二鋪	〇五		丸太沢口川鋪并新引割繩繼凡図		60×24	一鋪	〇三
	山神道下水道		115×77	一鋪	〇五		灯笼杉姥鋪之図		67×23	一鋪	〇六
院内銀山野多沢十作鋪図			38×30	一枚	〇五		銀左衛門水質鋪図		77×30	一鋪	〇三
院内銀山相及山上ノ鋪繩繼図			130×55	一鋪	〇五		銀左衛門鋪繩繼図		190×120	一鋪	〇三
雄勝郡院内銀山六番鋪図	荒谷和三部		360×90	一鋪	〇五		鋪繪図(殘闕)			七鋪	〇三
(大剪鋪・六番鋪普請所繪図)			140×75	一鋪	〇五		鉾 区				
中ノ沢備前多次右衛門切山鋪図			90×29	一鋪	〇六		秋田県北秋田郡大葛村大谷鉾区図(青写真)		56×55	一枚	〇六
(仁右衛門五番煙貫繪図)			150×88	一鋪	〇五		秋田県北秋田郡大葛村新蘆内鉾区図(青写真)		38×54	一枚	〇六



大葛村寺之沢内金銀銅鋳試掘認可願書并附属  
繪図(草稿) 明治二六年

羽後国仙北郡神代村白沢銀鋳略図 明治

岩手県和賀郡湯田村檜沢銅鋳採掘願地之図  
(草稿)

青森県三戸郡上郷村来満鋳山銅鋳区絵図  
明治

測量図

\* (測地図解) 足立雅之進 天明三年

\* 繩継之姿 [模型図]

山・沢 絵 図

雄勝郡(役内川筋) 四ヶ村御山絵図 荒谷忠右  
衛門図 安永六年

小猿辺沢之内査沢之図 文化一二年

七日市沢之内坊川図 荒谷富文写 文化一二年

秋田郡南比内長木沢之図并南部領濁川沢略対  
図 荒谷忠一郎 嘉永三年写

仙北玉川御境略図 荒谷忠一郎富謙写 文政一  
年(嘉永三年写)

小猿部沢落合々米代川前通り十一沢之図

(米代川右岸国境附近略図)

大内沢御留山沢口々水干迄略図

(上大内沢略図)

秋田雄勝郡湯ノ台村之内大役内沢略図

一通 八七

一枚 六〇

一枚 六五

一枚 六〇

継一卷 三七

一鋪 八五

一鋪 八四

一鋪 八六

一鋪 八五

一鋪 八二

一鋪 八六

一鋪 八五

二枚 八六

一鋪 七二

一鋪 七三

一枚 八六

荒手沢図 24×34 一鋪 八七

荒手沢図 65×45 一鋪 八六

長部沢荒木見分絵図草稿 荒谷富長図  
天保三年三月 60×74 一鋪 七四

(才川薪下シ攤畔図) 永助・半八 天保三年 半 一枚 四九

雑 絵 図

(二又村地番図) 34×96 三枚 八七  
34×96  
34×48

(扇田村々十二所町迄田畑略絵図) 荒谷重之丞  
天保八年 275×68 一鋪 八八

早口川沿岸開発絵図 元治一年四月  
附大口堰水門図 165×25 一鋪 八〇  
33×25

大久増金山荒谷氏文久辛酉建替新宅ノ図(間  
取平面・起シ図) 33×55 一鋪 八四

(建家平面図) [荒谷家カ] 12×11 一枚 三七

陸中岩手郡赤川新堰水路図 40×85 一鋪 八六

(陸中岩手郡北上川新堰水路図) 25×115 一鋪 八九

(盛岡御城下略絵図) 荒谷栄八 文政一二年 72×80 一鋪 九〇

(松前青森間海路図) 天保八年 34×49 一鋪 九一

蝦夷松前略図 30×38 一枚 九三

(久保田城評定所絵図) 半 一枚 一〇〇

土地

所持地

檢地帳

龜田郡南比内達子村他七ヶ村御野帳持高写帳  
二井田村忠右衛門 文政五年

美大 八綴 一

小田内丈助支配旭秋田郡扇田村本田  
御檢地帳 嘉永六年四月

打返起返 半 一冊 二

小田内丈助支配所秋田郡南比内曲田村  
御檢地帳 嘉永七年七月

打拔起り 本田並開 美大 一冊 三

檢地入用

岩野目村地形御竿入用扣 荒谷富長 嘉永元年

横半半 一冊 五

御竿入諸品取纏帳 忠右衛門代卯兵衛 安政二

横長半 二冊 六

御竿入諸入目勘定帳 安政二年

横長半 一冊 七

(御開発御檢使様用勘定覚) 安政二年

横長半 合三通 八

辛勞免高

二井田村荒谷忠右衛門所持辛勞免高届(控)  
亥年五月

一通 六四

(荒谷忠右衛門所持辛勞免高書上覚控) 忠右  
衛門・一関善太郎 岡安久治宛 亥年五月

一通 六六

(荒谷忠右衛門辛勞免二付村々江申渡書控)  
岡安久治 扇田・宿内・達子・曲田各村肝煎宛  
亥年七月

二通 五八

辛勞免高調扣 荒谷桂吉代理荒谷敏多 明治一〇  
年

一通 六九

(片貝村一ノ関辛勞免高調書類)

四通 七〇

自費勞力宅地及畑地ノ儀ニ付願書并秋田県指  
令書写 大葛鋤山住民総代荒谷彦助等 明治一  
八年

一通 六五

地租改正

岩目村・仲仕田村  
比立内村・早口村四ヶ村田地改正帳 小林熊吉  
明治九年

横半半 一冊 三〇

大葛村之内金山宅地々券証御下渡之儀ニ付願

半 一冊 一六

地券〔羽後国秋田郡達子村并二井田村田畑  
荒谷桂吉并五郎持地〕明治一年

九八枚 六四

開発

中仕田村開発出高割合ニ付御吟味役申渡覚  
弘化二年

一通 六五

早口村岩野目開発ニ付十六石拜領願書下書并  
被仰渡書 荒谷忠右衛門・御勘定場 弘化四年

二通 五四

曲田村開発出高御竿入御野帳拔書 嘉永七年

一通 五五

万宝録 荒谷富長 安政二年一月

横半半 一冊 三九

森会開発調覚 安政二年九月

横半半 一冊 一七

曲田村開発関筋ニ付願書 曲田村肝煎長百姓等  
安政六年

半 一冊 七〇

中仕田村環筋御普請ニ付開元拜借願書 喜惣兵衛 元治二年

半 一冊 六二

田地開墾山林諸用書留 荒谷桂吉 明治八年

横半 一冊 六三

御開発掘立々秋迄御手入積  
(独鉆村上川原畑返り地開発ニ付御達書写)  
小田内支助支配所吟味役 二井田村忠右衛門宛  
字処小谷地開発御帳尻覽

用水

半 一通 六四  
半 一通 六五

堰口放水門建替願 早口村 文久元年一〇月

半 一冊 七〇

開墾環筋 測量手帳 明治二六年九月

横半 一冊 七三

大葛村寺之沢用水堰筋開墾用地借地願書類  
(控) 実測図添

一綴 六〇

土地売買

家屋敷永代売渡証文 二井田村荒谷忠右衛門宛  
文政三弘化三年

五通 六四

(永代売渡申田畑手形之控) 文政一三年八月

半 一冊 三三

田畑讓証文(写) 荒谷富文 荒谷慶八・桓蔵宛  
文政九年(明治三年写)

一綴 三三

永代売渡田地証文 附平三郎書状三通 荒谷忠右衛門宛 天保三・四・一一年

七通 五七

永代売渡畑証文 兵右衛門 荒谷亦右衛門宛  
天保一一年

一通 五〇

扇田村辛勞免高永代売渡証文 荒谷忠右衛門宛  
天保一一年

一通 五三

元支配人荒谷桂吉去寅午持高持田地売渡書上  
帳 大葛金山(明治六年四月)

半 一冊 三〇

地所永代売渡証券 荒谷豊太郎 荒谷桂吉宛  
明治二〇年

二通 六二

田地永代売渡証券(控) 荒谷桂吉 明治二〇年  
売買地券御裏書願(草稿) 荒谷桂吉 明治二〇年

二通 六三  
一綴 六三

地処売渡証券 二井田村大字比内前田芳賀長太郎・福松 荒谷桂吉宛 明治二四年二月  
附抵当權設定登記済証 大館区裁判所扇田出張所 大正二二年一月・同二四年九月

三通 六〇

(地所売渡代金受領証) 佐川平兵衛 荒谷桂吉宛 明治三四年六月

一通 六三

(所有權移転登記通知書) 大館区裁判所扇田出張所 荒谷桂吉宛 明治三八年一月

一通 六〇

(忠兵衛田地求候義次第書上草稿) 文政四年二月

半 一冊 七〇

(荒谷忠兵衛弁明書) 荒谷忠兵衛控 真壁孫左衛門宛 巳年正月  
附口上書 荒谷忠兵衛

半 一通 六九

土地書入

島書入証文 善太郎 荒谷忠右衛門宛 天保四年

一通 六六

田地仮手形 借主權太 荒谷慶八宛 天保五年

一通 五九

田地書入御備錢拜借券状 平塚文蔵外四名 荒谷慶八宛 文久元年

一通 五三

小作

田地方米勘定帳尻 金山控 大葛金山 天保一  
五嘉永三年

横長半 一冊 五

田地方米錢勘定帳 大葛金山 慶応三年 横長半 一冊 三三  
 大葛村平助ニ三東畑并屋敷一件懸合覚 種太郎 四年四月 半 仮一冊 三三  
 (寄附田人役積書)  
 (田地人役覚書) 一通 三六  
 二通 三九

山林

山論・境論

(南部及秋田之境目論写) 慶安四一五年 半 一冊 三三  
 鍵掛御境之儀ニ付十二所御役人衆へ贈答之答 大葛金山 寛延三年二月 半 一冊 三三  
 (大葛村長部沢薪炭伐一件ニ付木山方裁許状 控) 書状添 文化一〇年 二通 三六  
 長部沢御木分前斧入一件扣 荒谷忠兵衛 文政 一・一・二二年 半 一綴 三六  
 (小猿部七日市村小舟木沢下草入会ニ付木山 方被仰渡書写) 文政一三年 一通 三三  
 (大葛金山領寺之沢境論裁許状并絵図) 木山方 荒谷慶八・忠一郎宛 万延二年 二通 三六  
 一枚 三六  
 木山方へ申上候控 (大葛村へ入会一件) 戊午六月 半 一冊 三三  
 材 木  
 屋普請用ニ付植立杉五百本伐取願書 荒谷慶八 酉年四月 半 一冊 三三

木材売渡証并同代金請取証 扇田村佐藤又治郎 山口市郎宛 明治二二年七月 二通 二五  
 附蛇坂沢木材調

植林

大葛金山荒谷氏杉立木下夕調帳 明治三〇年 横長半 一冊 三四  
 一月  
 (大葛金山領之内添植立証拠願控) 大葛金山 支配人荒谷忠兵衛 半 一冊 一九  
 大葛金山植立林仮条約書 関係書類共 明治九 年 一綴 九〇  
 明治十五年共進会山林褒賞授与証 農商務卿 西郷従道 荒谷桂吉宛 明治一五年三月 一枚 二〇三  
 官山拝借地 官山拝借立地取調書上控 (明治六年四月) 半 一冊 二〇二  
 一 明治二二年六月  
 (官山拝借願書御下戻願控) 荒谷桂吉 地理 局雇宛 明治一一年 一通 三〇七  
 官山拝借地取調書上 拝借主荒谷桂吉 明治 二二年五月 半 仮一冊 二〇〇  
 官民部分林 部分木及公文書類綴込 (部分木植立林払下一 件) 明治八一三一年 半 一綴 三四  
 (大葛村長部沢官林植立杉取調書) 草稿并控 荒谷桂吉 明治一四・一九年 三通 六六  
 (大葛村長部沢官林払下一件書類) 荒谷桂吉等 明治二六―三五年 一綴 六七  
 官民部分林処有権売買契約証書 (下書) 売渡 人荒谷桂吉 買受人四田吉太郎(のち諸沢寅吉外 三名に更訂) (明治三二年一〇月) 二通 二三五

官有山林下戻ニ関スル契約証書正本(写) 依田善吾・青柳紋治・山口市郎・米沢倉八外三名代人山口三郎・公証人对馬貞勝 明治三十三年一月

委任状(白紙) 荒谷桂吉

(部分林所有権売買約定部理代人委任状下書) 荒谷桂吉 明治三十三年一月

官民部分林所有権売買契約証書正本 写共 売主荒谷桂吉・買主諸沢寅吉・同万吉・荒谷可省・同福太郎・公証人对馬貞勝 明治三十三年一月

(官民部分林譲渡代金之内受領証(下書) 荒谷桂吉代人同五助 諸沢寅吉・万吉・荒谷可省・福太郎宛 明治三十三年二月

(官民部分林譲渡代金之内受領証下書) (荒谷桂吉) (明治三十三年九)

(官民部分林売買契約解除通告書下書) 荒谷桂吉

官民部分林造材売買契約証書正本(写) 売主諸沢寅吉・万吉・荒谷可省・福太郎・買主栃木県上都賀郡板荷村福田純作・公証人对馬貞勝 明治三十三年五月

(官民部分林所有権売買契約訂正証) 売主荒谷桂吉・買主諸沢寅吉・万吉・荒谷福太郎・可省 明治三十三年七月

(部分林売買契約改定証書) 荒谷桂吉・諸沢寅吉・万吉・荒谷可省・福太郎 明治三十三年一〇月

官民部分林所有権売買ニ関スル追加更正契約証書正本 下書共 売主荒谷桂吉・買主諸沢寅吉・荒谷可省・同福太郎・諸沢万吉・公証人对馬貞勝 明治三十三年一〇月

(杉立木伐採出願部理代人届下書) 仕付人荒谷桂吉 秋田大林区署長中山斧吉宛 明治三十三年一〇月

一通 二〇〇

一通 二〇〇

一通 二〇〇

二通 二〇〇

一通 二〇〇

一通 二〇〇

三通 二〇〇

一通 二〇〇

一通 二〇〇

一通 二〇〇

二通 二〇〇

一通 二〇〇

部分林売買契約証(下書) 売主荒谷桂吉 買主星野九平 明治三十四年二月

(官民部分林所有権売買契約解除催告書下書) 宛 明治三十四年二月 諸沢寅吉・万吉・荒谷福太郎・可省(荒谷桂吉)

当事者交替契約証書写 売主荒谷桂吉 買主栃木県上都賀郡小来川村星野九平 明治三十四年三月 附諸沢寅吉書状

(部分林台帳并ニ査定図照合願写) 荒谷桂吉 扇田小林区署長内田儀一郎宛 明治三十四年八月

官民部分林所有権売買契約解除証書正本 売主荒谷桂吉・買主諸沢寅吉・万吉・荒谷可省・福太郎・公証人对馬貞勝 明治三十四年八月

雑木採取ニ付稟権御届(下書) 荒谷桂吉 秋田大林区署長中山斧吉宛 明治三十四年八月

(雑木小柴採取稟権ニ付請書下書) (荒谷桂吉) 秋田大林区署長中山斧吉宛 明治三十四年八月

部分林杉立木民収権売買本契約条案 売主荒谷桂吉・買主久原房之助(明治三十四年八月)

(部分林杉立木民収権譲渡契約部理代人委任状下書) 荒谷桂吉 明治三十四年八月

(部分林杉立木民収権売買副契約書下書) (明治三十四年八月)

部分林分収権売買願(下書) 売渡人荒谷桂吉・買請人久原房之助 秋田大林区署長宛 明治三十四年八月

(国有林民収権売買代金受領証) 下書共 荒谷桂吉 久原房之助代人仙田桐一郎宛 明治三十四年八月一〇月

四通 二〇〇

一通 二〇〇

二通 二〇〇

一通 二〇〇

一通 二〇〇

一通 二〇〇

一通 二〇〇

一通 二〇〇

一通 二〇〇

二通 二〇〇

五通 二〇〇

(部分林分収権売買許可指令写) 秋田大林区署  
長道家光之 売渡人荒谷桂吉・買受人久原房之助  
宛 明治三四年九月

(杉植立木下戻指令) 農商務大臣平田東助  
荒谷桂吉宛 明治三五年四月

(杉立木下戻許可) 分御引渡御請書下書 荒谷  
桂吉 秋田大林区署長代理前田讓宛 明治三五年  
六月

(国有林土地及立木下戻申請事件委任契約書  
下書) 明治三六年

(大葛村寺ノ沢部分木払下願書類) 荒谷桂吉  
等 明治三〇―三五年

(大葛村寺ノ沢国有林下草払下願書類) 荒谷  
桂吉代理荒谷敏多 明治三五年

官民部分林分収部合売買契約証書 売渡人荒  
谷桂吉・買受人扇田町字押切浅野製材所緑川賢策  
明治四一年一月

(部分林分収部合売買代人委任状) 荒谷  
明治四一年一月 白紙添

(部分林売却予約書下書) (明治四一年力)

(部分林存続期間訂正願書下書) (荒谷桂吉)  
(大正初年力)

(抵当権設定登記義務者保証書下書) 大正一  
二年一月

杉部分木払下願・御請書 荒谷桂吉 秋田大林  
区署長内藤確介宛

(山林利用立証文書目録)

一通	一三三
一通	一三三
一通	一四二
一通	一四四
一綴	一四六
一綴	一六六
一通	一〇九
三通	一〇九
一通	一〇〇
一通	一〇七
二通	一三六
二通	一四二
一通	一四四

貢 租

二井田赤石前田 処務高控 忠右衛門 天保九年六月  
扇田達子片貝

田地石代取究帳 嘉永元年一〇月

当石代米取極帳 忠右衛門 嘉永五年二月

当石代米取極帳 元治元年

石代米取極帳 慶応三年二月

早口村銀穀上納一紙 早口村肝煎高坂与茂吉  
荒谷忠右衛門宛 文久二年

(上納米差引覚) 早口村与茂吉 荒谷忠右衛門  
宛 酉年二月

扇田 勘定扣 良介 慶応三年一〇月  
五助殿

産 業

養 蚕

長部沢ニ而養蚕屋用杉式百本拝領一件扣 大葛  
金山支配人荒谷忠兵衛 文政一一年四月  
養蚕取立ニ付願書扣 荒谷忠兵衛・同慶八 文  
政一一年

半	一冊	四
半	一冊	九
半	一冊	〇
半	一冊	三二
半	一冊	三六
半	一通	五九
半	一通	〇
半	一冊	二五
半	一冊	二七

(南比内村々桑苗植立ニ付内願書) 荒谷忠兵衛二勇植藏 戊午一〇月 半 一冊 六六

(掟) 養蚕附添役々宛 半 一冊 五二

畜産

馬産

三才駒献上請留 荒谷忠兵衛・慶八宛 文政五弘化二年 二通 五七

(諍馬仕法并定日被仰渡書写) (文政六年) 二通 五五

(青毛駒献上願書類控) 安政四年 三通 五九

駒献上覚 荒谷慶八 万延元年 一通 五九

陸軍々馬拝借関係書類 明治一二年 合一綴 六六

種馬預証 荒谷桂吉 明治一四年 一通 六六

洋式馬耕益拝借并返納願 荒谷桂吉等 明治一五年 二通 六七

種畜借用証写 附関係書類 明治三一・三四年 三通 六五

(濠洲産牝馬貸下料金年賦納金告知書) 附領收証 秋田県産牛馬組合長伊藤恭之助・第四十八銀行大館支店 荒谷桂吉宛 明治三九年三月・九月 四通 六〇

(牽付費決算追徴金額取証) 第四十八銀行大館支店 荒谷桂吉宛 明治三九年四月 一通 六四

(馬保管費用請求書) 諸雜費扣帳添 秋田県産馬組合事務所 荒谷桂吉宛 明治三九年七月 一冊 六五

(国有林放牧使用許可指令) (同放牧料領収証) 秋田県大林区署長林駒之助・花輪支金庫 荒谷桂吉代理荒谷敏多宛 明治三九年七月・八月 二通 六〇

(北秋田郡大葛村外三村駒持主調) 一通 五〇

牧牛

牛壳渡約定証 根本庄右衛門 荒谷敏太宛 明治一一年 一通 六二

種牛鑑定人任命書類 秋田県勸業課 荒谷桂吉宛 明治一三年 三通 六三

(大葛村泥海沢拜借地牧場反別ニ付願書) 荒谷桂吉代人同敏太 明治一七年 二通 六三

牧牛資金返納年賦延期願 秋田県指令共 荒谷桂吉宛 明治一八・一九年 一通 六四

放牧地使用願書并契約書 荒谷敏多 秋田大林区署宛 明治三五・三六年 一綴 六六

牧牛関係書類 半 五綴 三五

勸業

明治十年 内国勸業博覧会出品目錄 印三冊 七〇

第一回八郷聯合物産品評会授賞者名簿 孔二枚 〇五

萃果栽培視察録 北秋田郡真中村第一回視察員 半 孔一冊 六〇

政治

政治

村 政

大葛村々長当選認可書 附辞表案 秋田県知事 荒谷桂吉宛 明治三四年

二通 三〇

県 政

県會議員当選証書 秋田県知事 荒谷桂吉宛 明治二四・三一年

二通 六六

明治十五年度通常県會議案地方税支出徴収予算 附第廿三号議案修正案 明治一五年五一—〇月

一綴 六九

国 政

荒谷桂吉衆議院議員当選証書 附(受領証回付方通牒) 秋田県知事椿棗一郎 明治三七年三月

二通 一〇三

荒谷桂吉衆議院議員当選証書 附(受領証回付方通牒) 秋田県知事下岡忠治 明治四一年五月

二通 一〇三

(政会経費受領書) 政会幹事山田猪太郎代印沼田又七郎 明治三三年六月

一通 一六

(聖上皇后御写真下賜ニ付宮内省召換状) 衆議院議員荒谷桂吉宛 明治二七年四月

一通 一〇七

憲政本党々費領収証 同党本部・秋田支部 荒谷桂吉宛 明治三七年二月—三九年五月

五通 一〇七

東北饑饉救済金領収証 衆議院庶務課 荒谷桂吉宛 明治三九年二月

一通 一〇四

(旭日賞領票記入ノ心得并荒谷桂吉履歴書下書) 憲政本党 荒谷桂吉宛賞 勳局總裁宛 明治四〇年二月

三通 一〇六

主馬寮拝観順序

板三枚 一〇元

政 見

条約改正論意見書

一通 三三

谷將軍意見書

半 一冊 六六

(酒造法改正自家用酒造許可意見)(荒谷桂吉)

半 一冊 一〇九

(理想選挙実行希望案)

一通 一〇五

学 事

大葛小学校金山分校蓄積金一件書類 荒谷桂吉・大葛村役場 明治一九年

一綴 六七

秋田県育英会評議員嘱託辞令書 荒谷桂吉宛 明治三三年

一通 六九

荒谷桂吉秋田県育英会評議員辞令 同会總裁佐竹義生 明治三七年九月

一通 一〇五

家

家 譜

家 譜

荒谷家譜草稿 荒谷桂吉 明治三年

半 三枚 六七

温古家宝集録 荒谷桂吉 明治三年三月

半 一冊 一〇四

荒谷家譜 荒谷桂吉 明治四年一月

半 一冊 一〇五

(荒谷氏家系草稿)

八枚 一〇四



(荒谷桂吉戸籍等書上控) 明治四年

(荒谷桂吉戸籍等) 明治五年

(荒谷氏事歴書)

二井田一関氏家系

(簾内茂平二親類書)

進 献

青江吉次之刀献上之願書類 寛政七一文化一三

刀脇指改扣 荒谷氏 文政一〇年

無銘脇差鑑定書 本阿弥親俊 石田新左衛門宛

(家伝脇指来歴書) 天保四年一月

(刀脇差拵書)

家 法

(荒谷忠兵衛富文申論書) 慶八・和三郎・桓藏

・辰之助・市五郎宛 亥年九月

(荒谷忠右衛門申論書下書) 一関市五郎宛 天

保一四年一月

荒谷桂吉(富有)名花押記 野上令陳撰 文政六

年

(富謙名書)

養 子

(養子縁組保証届書) 荒谷慶八・忠一郎 酉年七月半

養子縁組証文 小畑惣兵衛 荒谷忠兵衛宛

婚 礼

樽肴遺物受帳 文政五年

(荒谷夷一婚礼関係文書)

1 (祝儀案内状) 荒谷桂吉 荒谷敏多・可省・

作良・冠三郎・嘉太郎宛(明治四三年)五月

2 荷物目録并口上書 荒谷桂吉 沼田信一宛

明治四三年五月

3 目録 (明治四三年)

4 到来物及手伝人記入帳 明治四三年五月

5 (祝儀次第外諸控) (明治四三年)

(大沢正尊婚礼案内状) 大沢士郎 荒谷桂谷宛

五月

墓 誌

(荒谷慶八墓誌銘草稿) 文久三年

附追悼一絶

法 事

法事使并諸用控 慶応二年

音 信

年始音信帳 安政六・慶応二年

歲暮音信帳

徵 兵

(荒谷夷一徵兵適齡届書) 荒谷桂吉 大葛村

長加賀谷嘉藤治宛

附徵兵猶予願下書 明治三七年一月

教 育

横長半

一冊 三五

二通

二通

一冊

一冊

一冊

一冊

一通

一通

二通

二冊

一冊

一冊

一冊

五冊

三二

二通

二冊

一冊

一冊

一冊

荒谷テイ簡易小学校履修証 大葛簡易小学校訓  
導谷河原弥三郎 明治二四年三月

分家

荒谷惣治郎別家元立金受留 荒谷惣治郎 荒谷  
忠兵衛宛 文政五年

荒谷茂助一家相続願取調書類 嘉永五年

役職

荒谷桂吉臨時勸業諮問会々員辞令 秋田県知  
事下岡忠治 明治四〇年一〇月

荒谷桂吉秋田地方森林会議員辞令 農商務省  
明治四一年一二月

家計

所得

所得金額決定通知書 鷹巢稅務署 (署長竹内虎  
太郎) 荒谷桂吉宛 明治四一年八月  
(所得金額内訳)

所得金額異議申立書 (下書) 所得金額申告書  
(用紙) 添 荒谷桂吉 秋田稅務監督局長宛 明  
治四一年八月

貸借

錢札借用証文 石川潤右衛門 荒谷敬八宛 嘉  
永七年五月

錢札借用証文 嘉成治兵衛 荒谷慶八宛 安政  
二年二月

金子借用証文 二井田分 (嘉成治兵衛) 荒谷忠  
一良宛 一〇月

一通 一〇五

一通 四

二綴 三二

一通 一〇六

一通 一〇四

一通 一〇三

四通 一〇三

一通 六

一通 六

一通 一〇四

(拝借金銭差引勘定書) 小松多八郎 荒谷敏  
太宛 明治六年一〇月

建家書入金子借用証文 荒谷徳藏 荒谷桂吉宛  
明治一一年

地処書入金子借用証券 東館町独鈷金員借主  
小松多郎左衛門・多八郎 荒谷桂吉宛 明治二  
二年七月

拝借金証書 秋田市本町五丁目上原勝 荒谷桂  
吉宛 明治二四年四年七月

乳井久右衛門等金子借用証券 荒谷桂吉宛  
附約束手形 明治三四・三五年

金子借用証 (改証) 荒谷桂吉 麓長治宛 明治  
一九年八月

金子借用証 荒谷桂吉 西村福藏宛 明治三二  
年一月

金子借用証 荒谷桂吉 高橋治三郎宛 明治二  
二年三月

(金員借用証) 荒谷桂吉 京兵吉宛 明治二八  
年一月

金子借用証書 荒谷桂吉 坂本祐吉宛 明治二  
八・三二年

年賦償還金員貸借契約証書正本 日本勸業銀  
行・荒谷桂吉 明治三八年一月

年賦償還金員貸借契約証書正本 控共 秋田  
農工銀行・荒谷桂吉 大正四年一月

借入申込書 (控) 大正四年一月 秋田農工銀行

(抵当權設定登記依頼通知書) 秋田農工銀行  
荒谷桂吉宛 大正四年三月

一通 三五

一通 六

一通 一〇五

一通 一〇九

四通 六〇

一通 一六

一通 二

一通 二

二通 一〇九

一通 六

一通 一〇一

二通 一〇三

一通 一〇三

一通 一〇四

領收証 秋田農工銀行 大正四年三月	一通	〇五
委任狀 日本勸業銀行 大正四年三月	一通	〇六
債権消滅書 秋田農工銀行 大正九年二月	一通	〇七
金預り証 荒谷桂吉 阿部与兵衛宛 明治九年九月	一通	二六
金領り証 扇田村長岐茂幹・荒谷五助 明治二一年九月	一通	二七
出 納		
小問物御通 本問屋金之助 荒谷宛 慶応四年七月	一冊	三〇
指引書 本屋栄治 荒谷宇吉宛 明治二年七月	一冊	三三
(金銭出入勘定帳) 長岐茂幹 荒谷宛 明治二二年六月	一冊	三三
(金銭出入帳) 扇田村荒谷五助 本家宛 明治二二年六月	二冊	二五
(忠国社借請金勘定書) 三九郎 荒谷宛 明治二二年七月	一通	二七
(薪繩延・人足勘定書) 小松多郎左衛門 荒谷宛 明治二二年七月	一通	二七
金銭出納 明治二九年一〇月	一冊	三三
当座小切手 荒谷桂吉 大久保銀行扇田支店宛 明治三五年二月	一枚	二五
(小切手発行控) 明治三六年	五枚	二五
(約束手形割引差引計算書) 第四十八銀行 明治三六・三七年	二枚	二五
約束手形 振出荒谷桂吉 秋田市茶町菊ノ丁 第四十八銀行宛 明治三七年一月	一枚	〇〇

(預金記帳通知書) 能代大久保銀行 荒谷桂吉宛 明治三七年一月	一通	二五
株式第五十九銀行当座勘定通帳 荒谷桂吉名義 明治四〇年七月一四三年一月	一冊	六八
(当座預金勘定通知書) 第五十九銀行扇田出張所 荒谷桂吉宛 明治四〇年二月・四一年六月	二通	二五
(支出手控)	二枚	三〇
(秋田行計算書) (荒谷御代助)	一枚	三〇
(満洲旅行経費差引)	二枚	三四
出 資		
秋田新報社株券 荒谷桂吉名義 明治二二年六月	五枚	二〇
秋田新報社營業資金出資券 荒谷桂吉名義 明治三五年三月	三枚	二〇
(荒谷桂吉ヨリ入金分請取証) 第四十八銀行 秋田鉄道会社創立事務所宛 明治二二年八月	一通	二二
三十三年度秋田興業合資会社収支決算明細表 附同将来収支スヘキ分 明治三三年	一通	二五
(帝国漁獵株式会社創立事務所受取証) 荒谷桂吉宛 明治三八年三月	一通	三五
秋田農工銀行臨時株主總會開催通知 頭取市川謙一郎 明治四一年七月	印一通	二五
請求請取書		
御宿泊料并御立換調書 名倉屋浜田平兵衛 明治二六年一月	一冊	三〇

(新聞代受取証) 秋田公論社 荒谷桂吉宛 明治三五・三七年	二通	二五
早稲田大学基金受領証 基金募集委員長前島密 荒谷桂吉宛 明治三七年二月	一通	〇〇三
(小川町蛭田幸三郎受取証) (明治三十七年二月)	一通	三三
(車賃受取証) 高麗屋 明治三七・三八・三九年	五通	三四
小為替金受領証書 明治三十七年四月	一通	二五
(診察料領收証) 牛込区矢来町諸角医院 荒谷夷一宛 明治三八年三月	二通	三〇
(病氣ニ付諸経費支出明細并計算書) 明治三八年三月	一冊	三六
(謝儀領收証) 北神保町暢春医院 荒谷夷一宛 明治三八年四月	一通	三三
日露戦史代領收証 早稲田大学出版部 荒谷夷一宛 明治三八年十一月	一通	〇〇三
(新聞代領收証) 秋田時事社 荒谷桂吉宛 明治三八年十一月	一通	三三
(護謄充填料受取証) 神田区今川小路田中齒科治術所 荒井(荒谷)宛 明治三八年二月	一通	三三
(角力茶屋請取証) 東京大角力協会角力茶屋大台 明治三九年一月	一通	三三
(時事新報・万朝報等代金受領証) 表神保町森本新聞店 浜田宛 明治三九年二月	一通	三三
小為替金受領証書 明治三十九年二月	六通	三四
(双眼鏡修理代受取証) 銀座玉屋商店 荒谷宛 明治三十九年三月	一通	三八

(背広代請取証) 日本橋区通り四丁目 清水洋服裁縫舖 荒谷宛 明治三十九年三月	一通	三四
(阿部彦四郎商店受取証) 荒谷宛 明治三十九年四月	一通	三〇
(海苔代受取証) 一ッ橋通町川口平吉 荒谷宛 明治三十九年四月	一通	三三
(写真代領收証) 神田駿河台小林写真館 荒谷宛 明治三十九年四月	一通	三九
(人夫賃計算書) 荒谷宛 明治三十九年五月	一通	三九
郵便物受領証 差出人荒谷桂吉 受取人通常為替金受領証書 荒谷夷一 明治三十九年六月	三通	三四
(製糸賃金受領証) 扇田製糸株式会社 荒谷桂吉宛 明治三十九年八月	一通	三七
(万朝報・報知新聞代金受取証) 小山新聞店 荒谷宛 明治三十九年九月	一通	三三
(宿泊料請取証) 神田区駿河台南甲賀町竜名館 浜田卯兵衛 荒谷(桂吉)宛 明治三十九年	五通	三四
(諸品代金請求証) 刃店 荒谷政三宛	一通	三〇
(乾草代・砥運賃等計算書)	一通	三〇
(三越呉服店受取証)	一通	三三
(徳力商店金地受取証) 荒谷宛	一通	三六
(経済時報代金領收証) 経済時報社 荒谷桂吉宛	一通	三〇
(賄料受取証) 函館島瀧	一通	三五
(賄料請取証) 牛込竜池館 荒谷宛	二通	三六

(料理代請取証) 花輪都屋 町田忠治事務所宛  
大沢・荒谷宛

(宿料受取証) 秋田達磨旅館 荒谷宛

(料理代請求・受取証) 花輪町岩手屋

(反物代受取証) 西小川町木村直次郎 浜田宛

(賄料請求書) 村木新三郎

(紋付染代受取証) 早川屋 浜田宛

(反物代受取証) 早森 荒谷宛

(諸品計算書) (後闕)

書留郵便物受領証 荒谷桂吉宛

雜 錄

救荒録并酒造伝 農礦齊撰 天保四年

記事(日記) 荒谷富延 明治五年四月

備忘記事(荒谷桂吉) 明治一三年二月

(秋田・大館・弘前行出張日記) (殘闕) 明治  
一三年四月

自分衣裳羽織寸尺(荒谷桂吉)

荒谷家要用書類綴 明治一八―四二年

荒谷家雜録

雜書類

斷簡

二通 三三七

一通 三三八

二通 三三九

一通 三三三

一通 三三四

一通 三三五

一通 三三六

一枚 三三六

五枚 三三六

一冊 三四

一冊 二〇〇

一冊 二〇〇

一冊 五七

一枚 二〇元

一綴 三三六

一綴 三三八

一袋 三三六

一袋 三三七

書 狀

荒谷差出書狀

荒谷忠右衛門書狀

荒谷忠右衛門書狀 荒谷忠兵衛宛

荒谷忠右衛門書狀下書 青山金右衛門・源太郎  
宛

荒谷忠右衛門書狀 東家將監宛

荒谷忠兵衛書狀

荒谷忠兵衛書狀 慶八・桓藏・辰之助宛 慶八  
・桓藏宛 一〇月・十一月

荒谷忠兵衛書狀 荒谷慶八宛

荒谷忠兵衛書狀(読書の勧め) 荒谷和三郎(後忠  
一郎)宛 天保四年一〇月

荒谷忠兵衛書狀下書 明石四郎右衛門宛

荒谷忠兵衛書狀 大畑形右衛門・田口喜門宛  
五月

荒谷忠兵衛書狀 篠内茂平次宛

荒谷忠右衛門富文書狀(荒谷和三郎富謙忠一郎  
と改名次第) 荒谷慶八・和三郎宛 一月

荒谷忠一郎書狀

荒谷忠一郎書狀 荒谷桂吉宛 九月

一通 三三六

一通 三三六

二通 三三六

二通 二二六

一通 三三六

三通 二二七

二通 三三六

一通 二二六

一通 二二六

一通 二二六

一通 二二六

荒谷忠一郎書狀 尊大人(慶八九)宛

八通 三六一

荒谷忠一郎書狀 高坂与茂吉宛

一通 三六二

荒谷忠一郎書狀 兵治宛

一通 三六三

荒谷桂吉書狀

荒谷桂吉書狀 (荒谷)孝太宛 一月

一通 二六一

荒谷桂吉書狀 荒谷敏太宛

二通 三六

荒谷敏太書狀

荒谷敏太書狀 荒谷桂吉宛 一月

一通 二六三

荒谷敏太書狀 河村隈太郎宛 明治三年六月七月

四通 三六四

荒谷敏多書狀

二通 二六二

荒谷宛書狀

荒谷忠右衛門宛書狀

国安久治書狀 辛勞免指上高覺共

二通 三六一

杉原謙治・安東鎮之助書狀 添状共

五通 三六二

青山金右衛門・源太郎書狀 荒谷忠右衛門・慶八宛

一通 三六三

上松平右衛門書狀 荒谷忠右衛門・慶八・忠一郎宛

一通 三六四

南部銅山奈良直右衛門書狀 荒谷忠右衛門・慶八宛

一通 三六五

荒谷忠兵衛宛書狀

明石四郎右衛門書狀

六通 三六一

安東幸治書狀

一通 三六六

伊勢屋徳兵衛書狀

一通 三六七

大窪部書狀

一通 三六八

大坂屋吉兵衛書狀

一通 三六九

小野崎武兵衛書狀

四通 三七〇

嘉七書狀 上様宛

一通 三七一

柏屋力幸太書狀

一通 三七二

岸縫殿書狀

二通 三七三

惣山下代杉原長治・安東三右衛門書狀 荒谷忠兵衛・慶八宛

二通 三七四

杉原伝兵衛書狀

二通 三七五

田村勘右衛門書狀

一通 三七六

根本吉兵衛書狀

二通 三七七

荒谷慶八宛書狀

扇田荒谷恒蔵書狀

二通 三七八

天嶋力儀助書狀 返書下書共 荒谷慶八・忠一郎宛

四通 三七八

一関市五郎書狀

一通 三七八

浦出源左衛門書狀 荒谷慶八・周一郎宛

一通 三七八

小野崎要書狀 荒谷慶八・忠一郎宛

一通 三七八

菊地恒助書狀 荒谷慶八・忠一郎宛

一通 三七八

清水永治・菊地恒助書狀 荒谷慶八・忠一郎宛

一通 三七八

杉原謙次書狀 荒谷慶八・忠一郎宛

一通 三七八

杉原謙治・安東鏡之助書狀 荒谷慶八・忠一郎宛

一通 三六八

武田三伯書狀 荒谷慶八・忠一郎宛

一通 三六九

真木銅山町田平治書狀

一通 三六〇

阿仁鉦山町松橋清之助書狀 荒谷慶八・忠一郎宛

一通 三六一

扇田某書狀

一通 三六二

荒谷忠一郎宛書狀

一ノ関文之助書狀

四通 三七一

一関平左衛門書狀

二通 三七二

小沢銅山今林永太郎書狀

一通 三七三

久符田一丁目本屋栄次郎書狀

二通 三七四

今泉村栄助書狀

一通 三七五

折本<sup>カ</sup>為助書狀

一通 三七六

久保田菊地東太書狀

二通 三七七

院内銀山工藤紀太郎・田口為三郎・高橋直作書狀

一通 三七八

兼治書狀

三通 三七九

小松多治右衛門書狀

一通 三七八〇

小松多郎左衛門書狀

一通 三七八一

如水書狀 六月

一通 三七八二

杉原謙治書狀

二通 三七八三

杉原謙治書狀

一通 三七八四

杉原順吉書狀

一通 三七八三

武田泰安書狀 返書案共 荒谷慶八・忠一郎宛

七通 三七八四

扇田又右衛門書狀

一通 三七八五

扇田山脇平右衛門書狀

一通 三七八六

某書狀

一通 三七八七

荒谷桂吉宛書狀

青柳直輔書狀 明治二七・三六年

二通 三六八

大館町青柳八郎書狀 明治四〇年一月

四通 三六九

郵便送達証書〔証人呼出狀〕 秋田地方裁判所

一通 三七一

大館支部予審係 明治四〇年

一通 三七一

安達甚五兵衛書狀 明治三九年五月

一通 三七一

荒谷滝吉書狀

一通 二八八

市川謙一郎書狀 明治一六・一七年

四通 二八八

秋田市本町上原久勝書狀 明治二年

一通 二八九

大久増右橋書狀 七月・一〇月

三通 二九〇

佐々木安藏書狀 八月

一通 二九〇

塩田団平書狀 九月

一通 二九一

雄勝郡山田村武石敬治書狀 明治二年

一通 二九二

陸中国鹿角郡小坂鉦山中西周輔書狀

一通 二九三

奈良庄衛書狀 五月

一通 二九五

扇田町乳井久右衛門書狀 一〇月

一通 二九七

雜書狀

一八通 二九八

荒谷鉞大宛書狀

荒谷五助書狀 西年二月 一通 二八五

河村隈太郎書狀 明治三年二月・二十四年二月 二通 六四十二

小林喜惣兵衛書狀 西年六月(明治六年九) 一通 三〇三

小松多八郎書狀 九月 二通 二九二

斎忠藏書狀 四月 一通 二九六

土口直助書狀 一通 三〇七

雜書狀 ヒデ・長岐谷郎・喜多村理吉・謹之助 七通 六五

荒谷福太郎宛書狀

弘前市元寺町對馬貞勝書狀 二月 一通 二五三

荒谷宛書狀

荒谷園吉書狀 本家宛 一通 二八七

荒谷五助書狀(金錢差引送金書) 本家宛 八月 一通 二八四

荒谷長右衛門書狀 本家宛 三月 一通 二八六

某(荒谷作良カ)書狀 本家宛 一通 二九八

荒谷兵治書狀(荒谷宛) 二通 六四三

荒谷茂助書狀 本家宛 六通 六四四

卯市書狀 荒谷宛 五通 六四六

吉右衛門書狀 本家宛 子年六月 一通 三〇二

山口市三郎書狀 三通 六七一

山口市三郎・明石四郎右衛門書狀 荒谷宛 一通 六七二

荒谷本家宛雜書狀 二五通 六八二

雜書狀

某書狀 一通 三〇八

中村義右衛門書狀 阿ら谷武左衛門宛 文政一〇年二月 一通 三三三

三日市達次郎書狀 独鈷村小松多郎左衛門宛 五月 一通 二九〇

学芸

文芸

荒谷富文詠草 荒谷和三郎宛(文政元年) 一通 三三九

南部大湯連中月並会発句并附合之評 判者無墨庵北睡 一卷 三三九

(勿論齋荒谷富文唱和詩稿) 一通 三三九

蓮田市五郎正実詩(七言絶句四首) 類題草野集十五本より 一枚 二〇六

書籍

蓮如上人御詠歌 大館新町布袋屋写(宝曆一四年四月写) 半 二冊 三三三

国本論 松平定信 天保二年三月藤原竹遙閑人書写 天明元年八月廿一日序・八年秋著 半 一冊 三三三



碧草 原南陽著 文化元年

美四半 一冊 三六

靈能宿替 内野常正 荒谷桂吉写 文化九年一月  
序・天保七年五月二〇日稿

半 一冊 九七

(經濟録食貨篇拔萃写)

半 一枚 一〇七

鄙都言種 荒谷桂吉写 明治二年

半 一冊 三三

一騎歌尽 加藤紳陰  
武具短歌 山鹿素行 (明治三年一月写)

半 一冊 九七

真田三代記難波譜 卷之卷一卅 (荒谷桂吉写)

半 三冊 九七

真田三代実記五篇 卷之十一卅 (荒谷桂吉写)

半 二冊 九六

張魏公浚戒子四益・一謙而四益・六謙徳 (写)

美半 一枚 一〇九

諸書雜抄 [年紀考其他]

美半 一綴 三〇

(往來物手本力)

一卷 三三

秋田県畜産協議会日誌 明治一三年

半半 印一冊 九六

秋田県勸業月報 第一〇・三八号 秋田県勸業  
課 明治一三年二月・一六年四月

半半 印二冊 九〇

秋田県勸業年報 第三回・第六回 (明治一三  
・一六年) 明治一四年八月・一六年

菊 印二冊 九一

秋田県勸業報文 秋田県 明治一四年九月

菊 刊一冊 九二

秋田興産会雜誌 第四号 秋田興産会 明治二  
四年二月

A 5 刊一冊 九三

秋田山林会報 第四号 明治三二年一月

菊 刊一冊 九四

明治 秋田県統計書 秋田県 明治三七年六月  
三十五年

B 5 刊一冊 九五

明治 秋田県統計書 秋田県 明治三八年一月  
三十六年

B 5 刊一冊 九六

明治 秋田県第廿三回統計書 第四卷 (勸  
業ノ部) 秋田県 明治四〇年五月

B 5 刊一冊 九七

(鉱業統計写) (明治三六年)

板一綴 二二七

国書刊行会主旨及規定 国書刊行会事務所  
明治三八年七月

四六倍 印一冊 一〇三

雜

男鹿小浜村ノ參候魚の略図 [マンボウの女魚  
図] 万延元年

一枚 五五

櫛之実製法 附図解共

二通 五五

(煙花打揚番組) 十二処卯

横美半 一冊 九〇

天正十九年七月廿日大坂出立糠の夫の討手 (写)

一通 三三

(三輔遣訓) [酒井土井青山紀事] (拔萃写)

一通 二〇六

(官祿規式) [柳營席次] 寛文八年

半 一冊 九六

(森川又左衛門拜領御書付之写) (文化二二  
天保六年)

一通 九六

羽州田川・飽海兩郡百姓歎類書 [酒井家転封  
反对ノ陳情] 天保二年

半 一冊 三五

江戸定府平田内蔵助ノ手簡之写 [江戸京都風  
聞] 小野岡御隠居宛 安政五年

半 一冊 三九

(桜田騒動斬奸状写) 万延元年

半 一冊 九齒

文久三癸亥西都風聞書

半 一冊 三

国立銀行条例并成規 荒谷桂吉抄写 明治九年

半 一冊 七

新聞切抜

四枚 三粟

## 荒谷家文書解題

### 文書の伝来と特色

#### 文書の伝来

本文書は、出羽国秋田郡南比内大葛金山<sup>おおくま</sup>支配人荒谷家に伝来した鉱山文書であり、昭和二五年度に旧藏者秋田県北秋田郡比内町大葛金山荒谷千代氏から当館に譲渡されたものを主とし、昭和四四年秋、整理担当者の現地調査にさいして、昭和二五年度収集から洩れた残余分を現当主秋田県大館市御成町三丁目一番三四号荒谷卓次郎氏（千代氏嗣子）から当館へ寄贈されたものを含む。前者の文書記号は25Bであり、本目録では整理番号一―九八七を与えてある。後者の文書記号は44Fで、整理番号は一〇〇一―一二七七の四桁数字として前者と区別してある。また「鉱山紀年録」<sup>二〇〇</sup>のうち二・四の二冊は昭和三八年度に古書店を通じて当館が購入したものである。

#### 文書の特色

本文書は荒谷家に旧藏されていた文書ではあるが、狭義の私文書は少量であり、質量ともに鉱山文書という性格が極めて濃厚である。またその年代は主として江戸時代後期から明治時代のものであるが、荒谷氏が大葛金山を受山（請山）として経営しはじめた安永八年（一七七九）以降のものであって、それ以前の史料は僅少である。

本文書の特色の一つは、安永九年の院内銀山受山以来、荒谷氏が藩内各地の鉱山の経営に進出したことから、大葛金山以外の鉱山経営関係史料が含まれていることである。であるから、本文書は単に大葛金山の史料にとどまらず、広く秋田藩鉱山史研究の一助になりうる史料なのであり、そのような観点からの利用にもある程度応えることができるであろう。

なお、本文書は旧蔵者から当館が直接に収集したのであるが、それまでに散佚が進んでいたとみられ、経営帳簿類が完備していない。しかも商家文書のような帳簿組織が存在したのかも疑わしく、鉱山の収支計算をみるのにも、一点ずつの史料からその数字を吟味して構成することが要求されるであろう。

最後に触れておきたいことは、鉱山文書はその用語が難解で容易な理解を妨げていることである。ここでいちいち参考文献を挙げるのは煩わしいので略すが、小葉田淳『日本鉱山史の研究』、『秋田県史』第二・三巻、『秋田県鉱山誌』などのほか、黒沢元重「鉱山至宝要録」(『日本科学古典全書』第十巻)、佐藤信淵「坑場法律」(『山相秘録』(『同』第九巻))、『大日本古記録』(『梅津政景日記』(九冊))などを一覧するとよい。さらに後記の「各項目の配列と概要」に記した代表的な史料、それに鉱山絵図、また当館所蔵秋田藩士小貫家文書(目録未刊、カードあり)を併せて参照されると便利であろう。

## 大葛金山と荒谷家の概略

### 近世初期の大葛金山

出羽国秋田郡南比内の大葛金山は、すでに秋田氏の比内領有の頃採掘されたようであり、秋田藩領の阿仁金山・院内银山、南部尾去沢銅山などと並ぶ有力な鉱山の一つであった。

周知のように、戦国末期から近世初期にかけて、わが国の鉱業はめざましい発展を遂げた。中でも金銀は軍資金や恩賞用に重用されたので、金銀山は戦国大名の熱心な資源開発の方針のもとに開発が進められた。豊臣秀吉やそのあとをうけた徳川家康は、鉱業を奨励して、金銀山の開発と領有に格別に注意を払い、海外から移入した新しい技術を用いて金銀増産に尽力し、比較にならぬほど巨大な金銀を蓄積

した。

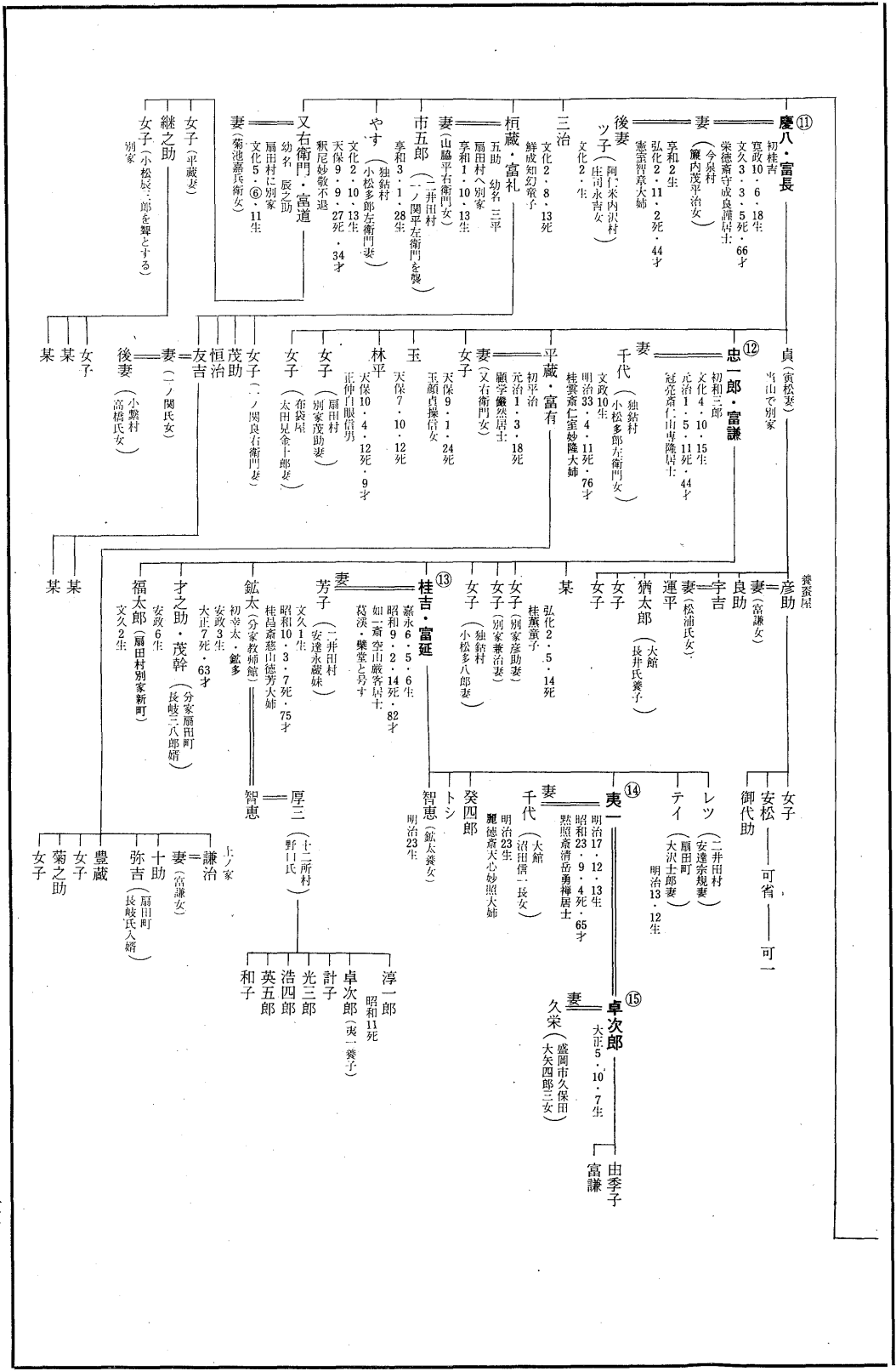
秀吉は、金銀山は公儀のもので、大名領のものも大名に預け置くのだという一種の専有主義をとり、直轄鉱山以外の鉱山からは運上金銀を納めさせた。江戸幕府も秀吉の方針を承け、石見・生野・佐渡・伊豆等の金銀山所在地を直轄地としたが、必要に応じて鉱山を上知させた例もある。藩領の鉱山も試掘・開坑・再掘を幕府へ出願し許可を得ることが必要であった。また少なくとも近世初期の金銀山盛期には間歩運上をはじめ鉱山からの税収を幕府に献納する例であり、幕府はこれをその大名に返還するのが普通であった。以上の定法は、鉱山の発見・開発が相つぎ、わが国の重要な鉱業地帯となった秋田藩においても例外ではなかった。従って領内産出金銀は藩の収入となったのである。

受山として稼行されていた大葛金山は、慶長末に悪かった山況も、元和三年（一六一七）に新間歩ができて直り、同年梅津政景の見分によれば、間歩数一七、小屋数二二〇〜二三〇、運上金四六〇目三分、家数一六四であった。その年七月末には早くも山況悪化の兆が現われたが、それでも元和年中はおよそ年一〇枚以上の金を運上していたとみられる。しかしこの状態も寛永期までは持続しなかった。一般にこの頃からこの鉱山でも産出が減少するが、その最大の理由は排水技術の未熟による坑道水没であった。もちろん一時の濫掘によるところもあったが、ともかく以後は坑道よりの水引きと水抜（水貫）普請に多大の経費がかかることとなり、この経費をかけても引き合う箇所が採掘されることとなったのである。

#### 荒谷家の先祖

荒谷家の先祖は、慶長七年（一六〇二）の佐竹氏秋田移封以前より、大葛金山のうち鍵懸沢に居住し、元和期の大盛りときは支配人・横目役・山方役などを勤めたという。しかし、「梅津政景日記」には荒谷氏に関する記事は全く見当たらないので、一応家伝によるとしてお





こう。

明治四年荒谷桂吉記「荒谷家譜」〔二〇五〕および同三年「荒谷家譜草稿」〔六七〕ほかによって荒谷家系図を別図のように再構成してみた。これによると、初代八郎左衛門は大葛金山開業以来山仕・山先役を勤め、二代八郎左衛門は山方役・山先役、三代重右衛門・四代八郎左衛門・五代忠右衛門はともに山先役・山仕を勤めた。六代忠右衛門富勝の享保頃は山が衰え、かれは町頭となり、元文頃から再び再び盛りを迎えた大葛金山の支配人となったと伝えるが、確証はない。

この間、慶安四年（一六五二）より延宝期までの奥羽国境紛争にさいして、左右一ツ通沢（市鳥沢・越鳥沢）へ移居し、国境守護役（横目役）を命じられている。以後荒谷氏は代々横目役に任じているが、山が衰微しても廃止するに至らなかったのは、大葛が国境に位置していたからといわれる。

七代忠右衛門富嵩のとき寛延三年（一七五〇）、大葛金山は仙北郡檜木内村小沢銅山支配となり、小沢手代頭らが預かるところとなったのである。

#### 荒谷氏の大葛金山支配

「大葛御直山被成置候次第留書」〔三七〕によれば、宝暦十一年（一七六一）、大葛金山は出金銅が減少し、経費が嵩むとの理由で、小沢銅山支配から独立させて直山とし、手代の中から荒谷忠右衛門（富嵩）を選んで、金三貫五〇〇目・銅三〇〇筒を差出すことを命じ、これまでの給金一〇両を二三兩に増し、帯刀を許されて、金山の経営を任されている。

「鉱山紀年録」では、これ以前の寛保元年（一七四二）から三年間、直山としての大葛金山の稼人に荒谷忠右衛門が記されているが、この関係史料がないので明らかでない。一応この頃荒谷氏が大葛金山全山の経営にあずかるようになったことはいえるであろう。



大葛金山上納高

年代	吹金	銅	鉛	年代	吹金	吹拔上金	灰吹金	銅	鉛
文化13年		268		天保11年	2,102.2			602.3°	
〃 14年		164		〃 12年	2,700.35			455	
文政元年	1,854.5	121		〃 13年	2,061.2			89	
〃 2年	3,702.1	85		〃 14年	1,624.5			77.5	
〃 3年	3,102.2	48		弘化元年	3,432.4			60.3°	
〃 4年	3,777.2	30		〃 2年	3,672.95			20.1°	
〃 5年	3,902.8			〃 3年	4,605.65				
〃 6年	3,787.3	16.5°		〃 4年	2,733.5			32.2°	19.9°
〃 7年	4,236.1			嘉永元年	3,837.4			19.6°	49.2°
〃 8年	5,220.8	46	19.7°	〃 2年	3,881.95				37.5°
〃 9年	5,354.6	18.6	3	〃 3年	5,747.4				13.2°
〃 10年	5,294.6	200		〃 4年	5,100.2				10.6°
〃 11年	4,847.6	201		〃 5年	3,777				9.6°
〃 12年	4,793	140		〃 6年	503	1,805.45			17.0°
天保元年	5,197.4	84		安政元年		3,568.75		25.0°	
〃 2年	4,638.8	80		〃 2年		4,234.8			
〃 3年	5,805.4	72		〃 3年		3,319.4			
〃 4年	7,192.4	39		〃 4年			4,464.9	54.2°	
〃 5年	4,904.1			〃 5年		858.8	2,201.9	44.9°	
〃 6年	6,480.7			〃 6年		2,836.3	7	38.9°	
〃 7年	6,865.9			万延元年		4,105.9			
〃 8年	11,766.5	111		文久元年		3,348.8			
〃 9年	6,407.5	420.0°		〃 2年		3,056.1		32.9°	
〃 10年	4,071.65	937		〃 3年		208.6			

(註) °印は以下端数切捨、史料は「永代録」[253]、「温古家宝集録」[1004]。

明和元年（一七六四）荒谷忠右衛門富嵩は金方世話役・横目役を命じられた。ついで安永八年（一七七九）大葛金山は荒谷氏の受山となり、まづ最初の三年は普請山として損益一任され、天明二年（一七八二）から直山格の受山として運上金年一〇両を藩に上納した。また寛政四年（一七九二）からは運上金一五両、同九年に一八両に増すこととなったのである。

文政元年（一八一八）よりは吹金買上運上は免除され、それまで許されていた自他払は禁止されて残らず上納させられることとなった。この吹金値段は江戸銀相場六〇目替で二三双替と定められ、一又は雑費に当て、山元へ二二双替をもって上納し、代金が下附されることとなったのである。「永代録」[三五]に記される大葛金山より御山師を通じて上納した金・銅・鉛の高は、表に掲

荒谷家関係鉱山一覧

文政7年 杉原寿山「鉱山紀年録」より作成

鉱山名	所在	稼人	期間	方式	備考
大葛金山 銅山	秋田郡南比内大葛村	十二所名兵衛・ 荒谷重左衛門ら 荒谷忠右衛門	延宝年中 寛保1. ~延享1. 宝暦11. ~明和1.12. 安永8.4 ~天明1. 天明2. ~天明6.	直山 普請山 直山格受山	出銅 損益一任 運上年金10両上納吹金他払勝手 先例の通り
院内銀山	雄勝郡院内村	荒谷和三郎 (患右衛門 銀右衛門) 荒谷忠兵衛 荒谷忠右衛門	天明6. ~寛政2. 寛政2. ~ 安永9. ~天明2.	受山	〃 出金に応じ増上納年金18両、文政1年より吹金買上運上免除。吹金値段江戸表60目銀相場にて23双替、1双は諸明石儀左衛門病死代 雑費に当て、山本へ22双替を以て吹金上納、毎度代金下置定
炭谷銅山	秋田郡南比内独鈷村	荒谷和三郎 荒谷銀右衛門 (患右衛門)	天明6.10. ~寛政1.10. 文化1.12.19	〃	〃
一ツ鳥沢荒砥山 越取沢	〃 〃 大葛村	荒谷忠右衛門	天明7. ~寛政年間 天明8.3 ~	普請山 受山	大葛山にて 大葛金山付属、年銀5匁上納、先年銀5匁運上を以て明山中
八盛銀山 鉛銅	山本郡八盛村	〃	寛政8. ~8.(11.5)	直山格受山	支配人
大湯埜沢銅山 鉛銅	秋田郡北比内長走村	荒谷忠藏 大坂屋彦兵衛・ 荒谷忠兵衛 荒谷忠右衛門	寛政8.11.5 ~9.2.12 文化10. ~文化12.10. 享和1. ~	受山	〃 彦兵衛は文化14年まで 銅鉛共、但産物方仕入にて
冷水沢鉛山	〃 〃 山田村	荒谷忠藏 (大葛山 の内の 二井田村 荒谷忠兵衛 治兵衛・ 平四郎・忠助)	享和2.9.11 ~文化1 文化3.12.22 ~6	〃	鉛10貫文替 運上金1歩掛切上納、出鉛正味16貫200目入1箇に付籠山届15貫文替売上定。忠右衛門大湯埜沢稼節産物万俵借金 100両中残金72両返済の上は10貫文替売上定
滝ノ沢燧石山	秋田郡北比内綴子村	荒谷忠藏 角間川村 茂左衛門	文化4.7.12 ~6	〃	沖口捌方次第追て出役銀申付
曲田沢見立金山 鉛銅	〃 南比内曲田村	荒谷忠兵衛	文政1.10.20 ~4.12 文政4.12.16 ~7.	〃	出金は江戸表上納定、値段銅1箇13貫文
軽井沢金山 鉛銅	秋田郡南比内軽井沢村	〃	文政1.10.20 ~7.	〃	〃
戸沢銅山 金錯有別処也猿間銅山下云	〃 〃 猿間村	〃	文政1.10.20 ~7.	〃	〃
赤沢銅山 鉛銅有金氣有	〃 北比内雪沢村	〃	文政1.10.20 ~7.	〃	〃

げたとおりである。吹金・銅とも天保期に最高を示すのが理解されよう。

#### 荒谷氏によるその他の鑛山経営

安永二年（一八二四）荒谷忠右衛門富高は雄勝郡院内村院内銀山を明石儀左衛門および阿仁銅山の石田久太郎とともに稼行することを命じられ、同九年明石儀左衛門病死後、ひとりで受山したのをはじめ、これ以後多数の鉱山経営に携わっている。「鉱山紀年録」によって荒谷家が関係した鉱山を一覧にしてみたが、文政七年（一八六四）まで実に一一の鉱山を数えることができる。もちろんその範囲は秋田藩領内に限られている。なお荒谷忠蔵は富高の弟富光の女婿であるからこれも表に加えておいた。従って鉱山の数は一二となる。

右以外の鉱山についての史料も本文書に若干含まれているが、これは恐らく文政七年以後に関係した鉱山であろう。

#### 大葛山内の概況

大葛金山は二又村より金山坑口に向かう道筋にいわゆる山内の建物が並んでいた。元治元年（一八六四）の書上帳〔四〇〕によると、山内惣家数は四八軒、惣人数は三一六人である。その内訳は支配人・諸手代一〇人、表門番一人、医者一人、金名子三二人、抱大工六人、掘子一九人、留大工二人、金場働五二人、水車手子二人、鍛冶三人、屋大工・木挽・桶屋五人、中間八人、岡廻り一人、その他の老若留主居一七五人となっている。人数外に庵主が一人いる。右のうち金場働は選鉱場働人で皆女子と見て支障ない。鍛冶が附属しているのは、大葛金山ではいわゆる買石（買師）による鉛の買上精錬ではなく、山内で直接精錬したためであろう。

右の家数・人数は幕末期においては大きな変動がなかったとみてよい。

#### 明治以降の大葛金山

明治二年、大葛金山支配人荒谷桂吉は「支配人御免願」〔五〇〕を藩に提出し、翌三年免除されて下山を命じられ、大葛金山は藩有となっ

た。同六年から一〇年までは工部省の経営するところとなり、桂吉の弟鉦太が手代（のち支山長）に任命され、外人技師を招いて指導を受けた。鉦太の家が教師館と呼ばれるのはこの故であろう。

同二三年、大葛金山は岩崎家に属し、尾去沢鉦山の支山となったが、同二六年三菱鉦業の経営するところとなった。この頃秋田の諸鉦山は財閥系の鉦業会社の手中に入ることとなったのである。

#### 明治期の荒谷家

大葛金山の経営から離れた荒谷桂吉は、大館町の中田錦江について儒学を修め、東京に出て和漢の学を学んだ。しかし、引き続き他の鉦山の試掘、経営への投資を行なうとともに、山林や畜産などの諸事業にも進出したのである。いっぽう政界に進出し、県会議長・国會議員と多彩な政治活動を行なった。その詳細は「各項目の配列と概要」の『政治』の簡条によられたいが、彼は衆議院の議席にあること三回、大養木堂・内藤湖南・町田忠治と親交を結び、明治四五年病を得てその地盤を町田に譲り、政界を隠退したという。彼の死去は昭和九年二月一四日、八二才であった。

桂吉の長男夷一は大葛小学校・大館中学校を経、早稲田大学政治経済学部を卒業した。以後、大葛村長を二三年の長きにわたって勤めている。その死去は昭和二三年九月四日、六五才であった。本文書の旧蔵者荒谷千代氏はその未亡人である。

## 文書の配列と概要

### 配列の方針

文書の利用の便宜のために、本目録でも分類項目を立てて史料を配列した。全体を一一の大項目（目録では一〇ポイント・ゴチック活字で示

した)に分け、それぞれに中項目(九ポイント・ゴチック活字で示した)および必要に応じて小項目をおいた。以下の文中では項目名を『』に入れ、大項目はゴチック活字で、中項目は「。」を付し、小項目は何も付さずに区別した。

配列の順序は、主として公的性格をもつ史料を先に、私的性格をもつ史料をあとという方針をもって、『領主』のあとに本文中最も特色あり量も多い『鉾山』をその次に置いた。もちろん、『鉾山』に配列した史料も厳密な意味における公文書ではなく、大部分はいわば準公文書と私経営関係の文書といえよう。

それぞれの項目のうちにおける史料の配列は原則として年代順とし、同種同様内容の関係史料は一括した場合もある。それらの場合には他の関係史料との間を一行あけてある。また年代不明の史料は、それが明らかに近世のものであるときは近世の年代記載史料の後に、近代のものであるとき、またはどちらとも判定できないときはその項目の最後に配列した。史料の分類基準は原則として内容分類方式を採ったが、『絵図』『書状』の史料形式表示の大項目をも採用した。その理由は「各項目の配列と概要」において記す。

#### 各項目の配列と概要

##### 『領主』

『領主』は『藩政』と『法令』に分けた。『藩政』は『藩主』『家臣』『維新』ともに写ないし聞書類が主であって、領主から大葛金山ないし荒谷氏に宛てられたいわゆる公文書ではない。『法令』も『幕法』は貨幣通用に関するもの、『藩法』は儉約令・海防・軍備などに関する仰渡であって、荒谷氏が明治初年に写した『布告・布達』とともに全体に量が少ない。つまり、総体的に厳密な意味における公文書が少ないという特色があらわれている。

##### 『鉾山』

『鉾山』は本文書の中核をなすもので、全体の半分を占め、さらに『鉾山絵図』を加えると約七割にも及ぶ。従って中項目も多数立てざるをえず、やむをえぬことはいえ、やや複雑になったことは否定できない。

ところで前述したように、荒谷氏は大葛金山のほか、院内銀山をはじめ多くの鉱山経営に携わったので、当然それらの鉱山史料も含まれている。従って『鉱山』の中の分類はまず鉱山ごとに分けてから内容分類する方法も考えられよう。しかし、関係鉱山が多い上に、一点でいくつかの鉱山にわたる内容の史料や、数量的史料の中には鉱山名が不明な史料もかなり見受けられる。そこで『沿革』と『鉱業投資』は小項目において鉱山ごとに分類したが、他の項目は敢えて鉱山ごとに分けず、同一鉱山を一括したり、あるいはそれもせずに表題・作成者ないし差出人・宛名等に鉱山名を記すことでそれを判別できるようにした。けれども大葛金山に関する史料が大部分であるから、明記していないものは大葛金山とみてよく、またその中に鉱山名不詳のものが若干含まれていることを諒承されたい。

さて配列の順序は、「政景日記抜書」〔三三六〕、「鉱山紀年録」〔二四〕など秋田藩領鉱山の概要を記した記録の写類を『概要』としてまず最初に置き、次に秋田藩・幕府の鉱山支配、諸鉱山の沿革、支配人荒谷氏の任免等、鉱山の仕法・技術、諸鉱山の請負と経営、鉱夫・器材・原材料、採掘から精錬に至る生産過程、金銅等の産出と上納、会計・金融など経営費用に関する史料を順序に配列してみた。

『砥石山』は金・銀・銅・鉛などの金属と性格を異にするため全く別の項目にまとめ、他の関連項目にできるだけ重出した。

ついで出金銅・原材料等の搬出入に関する『交通・運輸』を置き、鉱山経営に関して作成された記録である『用留・日記』の後に、明治期の荒谷桂吉の『鉱業投資』を、関与した最初の年代順に配列したのである。

大葛金山を主とする『鉱山』の史料の概要は「大葛金山の概要」において述べたので、重複することになるから詳述を省くが、二、三の項目や史料について簡単に触れておきたい。

『山法』のうち（山法定書）〔二〇〇二〕、（院内銀山御条目）〔二〇〇三〕は最も基本的な山法として参看されたい。

『技術』に配列した諸史料は、いわば鉱山の秘伝書類であって興味を引く史料であるが、とくに「任筆雑集礦事録」〔二八三〕は鉱山技術の

総体が図入りで判りやすく記されており、鉱山史料を利用するに当たっては是非参照されることを薦める。また(測地図解)〔三三七〕は三角測量法を図示したもので珍らしい史料といえよう。

『経営』の『役人』のうち〔二〇八〕の誓文は血判があるが、これら分家は非血縁分家であり「養分家」と呼んでいるものである。『騒動』のうち嘉永元年・六年の出奔一件の諸史料は鉱夫らの逃散形態の闘争史料であって注目されよう。周知のように鉱山にとって飯米確保は重要な存立条件であり、藩にとっては蔵入米の高値売払いによる収益の手段でもあった。『米穀』は飯米の授受や下附願の史料であるが、大葛近辺では米作がないので、大館あるいは能代より米を買入れているのである。

『採掘』の『排水』では水抜普請あるいは大浚普請の史料であるが、文政期の鍵懸沢、天保期の市鳥沢の水抜普請によって排水が進み、間歩が深く掘りうるようになって、文政・天保期の吹金上納高増加となったと考えてよからう。

『精錬』のうちの塩詰焼金仕法伝授に関する史料(〔二六〇〕〔二六五〕〔二七二〕〔二七三〕〔四四三〕ほか)は、院内銀山より大葛金山に灰吹金塩詰法が伝えられ、安政四、五年は灰吹金で上納することになった関係史料である(大葛金山上納高表参照)。

『会計』の金位双替は、たとえば大葛金は文政元年で二三双替(金一匁銀二三匁替)、うち二一双山元、一双御備、一双御金蔵へ上納する定めとなっているが、つまり金買上値段の決定に関する史料をここに配列したものである。

『金融』の『拝借』は藩よりの拝借、『返納』は藩への返納、『貸借』はそれ以外の金銭貸借史料を収めてある。

最後に『用留・日記』中「享保拾二年書留」〔三三三〕、享保九年の辰之年日記〔三三七〕は、本文書には数少ない古い記録である。

### 『絵 図』

『絵図』は二〇〇点以上もあり、本文書の特徴の一つをなしている。しかし、この『絵図』のうちに収められるものは、年代明記のものや、さらに作成事由が記されているものは極めて少ない。しかも鉱山の概況を示す岡絵図や鍬や鉋の筋を記した絵

図のほかに、坑道を描いた鋪絵図が大量に含まれていて、それが新見立（開巻・取明普請（再開）・鋪延長・水抜普請（排水坑採掘）・繩継（測量）など）のうちいかなる事由によって描かれたものか推測したいことが大部分である。また岡絵図に鋪をも書き込んだものがある。従ってこれら絵図は『鉾山』のそれぞれの項目に細分類することが困難であるので、すべてを纏めて大項目としたのである。

『鉾山絵図』は大葛金山を最初に置いたが、その中では岡絵図や総山が描かれている鋪絵図を先にし、個々の鋪絵図は後に配列し、主要な鋪絵図は一括した。『立又沢銅山』以下の小項目は、大葛金山に近接した秋田郡南比内の諸鉾山からはじまり、順に北比内・阿仁銅山を経て、山本郡・雄勝郡に至って秋田藩領が終るようにした。ついで尾去沢銅山以下の『南部領鉾山』、伊良川や尾太などの『津軽領鉾山』と並べ、目録作成時点までには所屬を明らかにしえなかった『不明鋪』を置き、明治期の『鉾区図』に続いて、最後に『測量図』を配列した。

『山沢絵図』は荒谷氏が新見立のために見分し、あるいは参考のため写し取った絵図が大部分と思われる、とくに古鉾山跡や「金」「カネ」などのつく小字・山沢名を記している。なおこれに用材・薪炭の採取、植林のために作成されたと思われる絵図も含めた。

『雑絵図』は鉾山に全く関係のない、村町図・耕地図・水海路図・建家図等を加えた。このうち「文久辛酉建替新宅ノ図」「穴内」は現在荒谷千代氏が居住している荒谷家とは間取りが異なっていることを附言しておく。

### 『土地』

一般に鉾山は山奥にあり、他の村方とは隔絶しているのであるが、大葛金山の場合は小沢を隔てて大葛村枝郷二又村に接しており、木戸や柵を結び、門番を置いて、村方との接触はありうべきことであった。

しかし鉾山稼人は田畑の所持を禁止されており、荒谷氏自身も大葛金山領はもとより、大葛村内にも土地所持をしていない。けれども『土地』のうち『所持地』は荒谷氏所持の田畑である。しかも荒谷氏は肝煎等の村役人を勤めたことがないから、余計そう考えざるをえないのである。



『検地帳』のうち文政五年「御野帳持高写帳」〔二〕は秋田郡南比内の達子村・新館村・扇田村・釣田村・片貝村・八木橋村・二井田村・前田村の八カ村における荒谷忠右衛門持田畑の野帳の控であるから、これは明らかに所持地である。しかもこれは「二井田村忠右衛門」と記されているから、一〇代忠右衛門富文（忠兵衛）のことである。

荒谷氏は明和元年（一七六四）以来、南部越境目小道の横目役として五合三人扶持を給せられたが、これを二井田村の年貢米をもって収納したというが、右の所持地はこれに相当するのであろうか、はたまた荒谷氏による開発地（いわゆる辛勞免地、年貢免除地）に属するものであるのかは利用者において判定されたい。

『山林』は全体として『鉱山』の『用材』と密接な関連があると思われるが、一応村方との山論や私的な『材木』『植林』に関する推測される史料、および明治期以降の山林関係史料をここに配列した。（南部及秋田之境目論写）〔三〕は秋田領と南部領の国境争論文書で、慶安四年（一六五二）より延宝年中まで継続するが、荒谷氏が横目役として写したのか、後年の山論証拠書類として写したものか判定しがたいのでここに配列した。

『山林』のうち『官民部分林』は、寺ノ沢・長部沢などの官民部分林民収権の売買に関する史料である。払い下げを受けた材木が鉱業用に使われるのか、または林業としてのそれか明らかではないが、とにかく寺ノ沢国有林の杉立木は、最終的には明治三四年久原房之助に買取されてしまうのである。

### 『産 業』

鉱山以外にはみるべき産業はないが、一応文政期などの養蚕取立・桑苗植樹関係史料を『養蚕』に分類し、ついで『畜産』のうち近世の駒献上史料と明治期の洋式馬借用による種畜と放牧の史料を『馬産』に、やはり明治期の牧牛関係史料を『牧牛』に配列した。最後に博覧会・品評会などの史料三点を『勸業』として置いたが、なお『学芸』の『書籍』に配列した勸業関係報告書類も参

照されたい。

『政治』

『政治』と『学事』に分けたが、ここに配列した史料はすべて荒谷桂吉の政治活動に関するものである。

『政治』のうち『村政』は明治三四年大葛村長に当選したときの認可書であるが、これに辞表案が付いているように、彼は直ちに辞任した模様で、大葛村長三日間在任の記録もある。『県政』は県会議員の当選証書で、明治二四年と三一年に当選し、県会議長となつて活躍したのであるが、同十五年度の議案〔九九〕があるところをみると、県議会活動はもつとさかのぼりうるかもしれない。

『国政』は、明治二五年二月一日、第二帝国議会議に自由党から、同三七年三月第九議會、同四一年五月第一〇議會に憲政本党から当選し、同四五年神経痛で隠退するまで衆議院議員として活躍した史料である。なお荒谷桂吉は衆議院議員として東京市神田区駿河台南甲賀町竜名館浜田卯兵衛宅を宿舍としていたが、『家』の『請求請取書』の多くはその時期のものが多く含まれている。

『家』

大きく『家』、『家計』、『雑録』に分けたが、狭義の私文書をここに収めたので、明治期のものが圧倒的に多くなった。

『家』の家譜はすべて荒谷桂吉が自分で調べて記録したものであるが、二井田一関氏・今泉村簾内氏ともに親族である。

『家計』のうち『貸借』は私的な金銭貸借と思われるものを配列したが、明治二〇年代以後は県内鉾山経営者と、同三〇年代以後は銀行資本との多額な貸借関係が目立ち、結局県内鉾山が地元資本から中央の政商資本の翼下に吸収されていく事態の反映とみられるのである。

『出資』は荒谷桂吉の資本の活動の一部であり、その他の『鉾山投資』は『鉾山』に入れて除外してある。秋田新報・第四十八銀行・秋田鉄道（現国鉄花輪線）・秋田興業・秋田農工銀行など県内企業への出資が主体である。

『書状』

『書状』は当然公書状と私書状とに分かれる筈であるが、藩の下級家臣の氏名が詳らかでないため、実際の整理に当たっては判然と区別しえなかった。また『書状』の相当量は幕末・明治期の私書状であるから、若干の公書状が含まれていることを承

知の上、荒谷差出書状・荒谷宛書状・雑書状（差出人・宛名とも直接荒谷家に関係ない書状）に大別し、歴代当主の差出書状、宛書状ごとに小項目をたてて、その中は宛名もしくは差出人の五十音順に配列した。ただし、荒谷家当主・兄弟等相互の書状ははじめに配列してある。

### 〔付記〕

本文書の整理および目録の作成には大野瑞男が当たった。作成に当たり多くの関係者の方々から御教示、御協力を賜わったが、とくに、旧蔵者の荒谷千代氏・荒谷卓次郎氏をはじめ、荒谷智恵氏（桂吉氏四女）、相沢清治氏（秋田県史編さん室）、原武男氏（秋田県立秋田図書館）、佐々木潤之介氏（一橋大学）、辻由紀子氏（アジア同友会）、および秋田県立秋田図書館、秋田県史編さん室の諸氏・諸機関にはたいへんお世話になった。末筆ながら記して深甚なる謝意を表する。

史料館所蔵史料目録 第十八集

昭和四十六年三月三十一日印刷

昭和四十六年三月三十一日発行

東京都品川区豊町二丁目十六番十号  
編者 文部省史料館  
集行 者

東京都江戸川区西小岩三丁目九番三号  
印刷所 依田印刷株式会社